指 導 案

第１学年　生活科（交通安全）　　場所　第１学年１組　教室

安全な行動を伝えよう（校外）

指導者　櫻木　直子

1　単元の目標

これまでの学校生活を振り返り、校外での安全な行動について新１年生になる保育園児に伝えることを通して、理解を深め、実践できるようにする。

2　学習指導要領との関連

生活科　内容

（１）学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

3　単元について

児童はこれまで、生活科や学級活動の授業、日常的な安全指導の中で、校内や校外での安全な行動や安全を支える人々の存在について学んできた。しかし、学校生活への慣れから危ないと感じる場面も見られる。来年度１年生になる保育園児に安全な通学や交通ルールについて伝える活動を通して、これまでの学習や自分の行動を振り返り、成長を実感すると共に安全への理解を深められるようにする。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

保育園児に伝える活動を通して、道路での安全な行動を自分事として考えることができるようにする。また、今回招待する保育園付近の道路を実際に調べに行く活動を通して、安全を守るための設備や人々、危険が予測される場所に気付かせ、安全への意識を高める。

5　指導計画(全７時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	「安全ランド」の見通しをもち、保育園児に伝えたいことを考える。 ※「安全ランド」:コーナーに分かれて、校外の安全行動について伝える場。	☆写真やクイズを用いながら、これまでの安全に関する学習内容や体験を想起できるようにする。 ◇保育園児に伝えたい「安全な行動」や「危険な場面」について考えている。
2 3 4 5	テーマごとにグループに分かれ、「安全ランド」の準備をする。	☆既習事項の振り返りや、調べる活動を通して、グループごとに伝える内容を考えさせる。 ◎保育園児が楽しみながら安全に関する知識を高められるよう、伝える内容や伝え方を考えさせる。 ◎２組の児童で事前の取り組みをする。

6 本時	「安全ランド」を開く。	◎相手に応じた話し方や関わり方を意識させる。 ◇保育園児に伝える活動を通して、安全な行動についての意識を高めている。
7	「安全ランド」の振り返りをする。	◎「安全ランド」を行って思ったことや考えたことをまとめ、交流する。 ◇安全に行動する意識が高まっている。

6　本時の展開（6/7）

（1）　ねらい

保育園児に伝える活動を通して、道路での安全な行動についての意識を高める。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○保育園児を招き入れ、会の説明をする。 あんぜんランドで　あんぜんのたいせつさを　つたえよう。	
○グループに分かれて、安全な通学や交通ルールについて保育園児に伝える。(クイズコーナー、体験コーナーなど) 〈踏切コーナー〉 ・踏切の正しい待ち方や渡り方、危険な行為などについて伝える。 〈道路の歩き方コーナー〉 ・白線の意味、駐車車両近くの歩き方などについて伝える。 〈信号機、道路の横断コーナー〉 ・止まる、左右の確認、手を上げる、信号機の色の意味などについて伝える。 〈危険な場所コーナー〉 ・十字路や曲がり角などの見えにくい場所や、曲がってくる車や自転車の危険について伝える。 〈雨の日コーナー〉 ・傘の差し方、雨の日の危険などについて伝える。	◎グループで一人が案内役になり、各コーナーを回れるよう保育園児を誘導させる。 ◎保育園児に優しい声かけや行動ができている児童を褒める。 ◎自分の言葉で分かりやすく伝えながら、保育園児と対話することを意識させる。 ☆各コーナーで押さえたい「安全のポイント」を明示する。 ☆タブレットの写真や動画を用いて伝えることで、実際の場面をイメージできるようにする。 ☆傘を差したり、道を渡ったりしながら、安全な行動について体験を通して学べる場面を用意する。 ◇保育園児が楽しんで学ぶことができるように工夫している。【思・判・表】(観察・発言)
○保育園児の感想を聞く。 ○終わりの挨拶をする。 ○活動を振り返る。	◇保育園児に安全な通学や交通ルールを伝えることで、安全な生活についての意識を高めている。【学び】(発表)

第１学年　生活科（生活安全）　　場所　第１学年２組　教室

安全な行動を伝えよう（校内）

指導者　臼井　満里奈

1　単元の目標

これまでの学校生活を振り返り、校内での安全な行動について新 1 年生になる保育園児に伝えることを通して、理解を深め、実践できるようにする。

2　学習指導要領との関連

生活科　内容

（1）学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

3　単元について

児童はこれまで、生活科や学級活動の授業、日常的な安全指導の中で、校内や校外での安全な行動や、安全を支える人々の存在について学んできた。しかし、学校生活への慣れから危ないと感じる場面も見られる。来年度 1 年生になる保育園児に校内での安全な過ごし方を伝える活動を通して、これまでの学習や自分の行動を振り返り、成長を実感すると共に、安全への理解を深められるようにする。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

保育園児に伝える活動を通して、自分たちが学習してきた学校での安全な過ごし方について振り返ることができるようにする。自らの校内での行動を振り返ることで、安全な過ごし方を再確認し、安全に行動しようとする意識を高める。

5　指導計画（全 7 時間）

時	主な学習活動	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	「安全ランド」の見通しをもち、保育園児に伝えたいことを考える。 ※安全ランド：コーナーに分かれて、校内の安全行動について伝える場	☆写真やクイズを用いながら、これまでの安全に関する学習内容や体験を想起できるようにする。 ◇保育園児に伝えたい「安全な行動」や「危険な場面」について考えている。
2 3 4 5	テーマごとにグループに分かれ、「安全ランド」の準備をする。	☆既習事項の振り返りや調べる活動を通して、グループごとに伝える内容を考えさせる。 ◎保育園児が楽しみながら安全に関する知識を高められるよう、伝える内容や伝え方を考えさせる。 ◎1 組の児童で事前の取り組みをする。

6 本時	「安全ランド」を開く。	◎相手に応じた話し方や関わり方を意識させる。 ◇保育園児に伝える活動を通して、安全な行動についての意識を高めている。
7	「安全ランド」の振り返りをする。	◎「安全ランド」を行って思ったことや考えたことをまとめ、交流する。 ◇安全に行動する意識が高まっている。

6　本時の展開（6/7）

（1）　ねらい

保育園児に伝える活動を通して、校内での安全な行動についての意識を高める。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○保育園児を招き入れ、会の説明をする。 あんぜんランドで　あんぜんのたいせつさを　つたえよう。	
○グループに分かれて、学校での安全な過ごし方を保育園児に紹介する。 〈給食準備コーナー〉 ・給食当番の配膳での注意事項を伝える。 ・食器が乗ったおぼんを運ぶ際の注意事項を伝える。 〈登下校コーナー〉 ・柴又小学校は登校班で登校することや、登下校での危険について伝える。 〈水道、トイレコーナー〉 ・水道の周りやトイレの床での危険なできごとを伝える。 ・水道やトイレの安全な使い方について伝える。 〈廊下、階段コーナー〉 ・廊下や階段を歩行する際の危険や、廊下や階段は右側を歩くこと、曲がり角で人とぶつからないように気を付けることなどを伝える。 〈校庭コーナー〉 ・校庭で遊ぶ際の危険や、柴又小学校では学年ごとに遊ぶ場所が決まっていること、犬走りは走ると危ないことなどを伝える。	◎グループで一人が案内役になり、各コーナーを回れるよう保育園児を誘導させる。 ◎保育園児に優しい声かけや行動ができている児童を褒める。 ◎自分の言葉で分かりやすく伝えながら、保育園児と対話をすることを意識させる。 ☆各コーナーでは、学校生活の紹介にならないよう、押さえたい「安全のポイント」をしっかり明示する。 ☆タブレットの写真や動画を使うことで、実際の場面をイメージできるようにする。 ☆おぼんを運ぶなど体験を通して学べる場面や、クイズなどを通して楽しんで学べる場面を用意する。 ◇保育園児が楽しんで学ぶことができるように工夫している。【思・判・表】（観察・発言）
○保育園児から感想をもらう。 ○終わりの挨拶をする。 ○活動を振り返る。	◇学校での安全な過ごし方を保育園児に伝えることで、安全な生活についての意識を高めている。【学び】（発表）

第２学年　特別活動：学級活動(生活安全)　　場所　　家庭科室

安全に通学しよう～不審者から身を守る～

指導者　T1 森内　祥子　　T2 湯浅　郁也

1　題材の目標

不審者に出会ってしまった時の安全な行動の仕方を理解する。

2　学習指導要領との関連

特別活動〔学級活動〕　２　内容（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成
現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3　題材について

４年前、松戸市で、登校時を見守っていた保護者会会長が、女児を連れ去り殺害するという事件が起きた。全国の学校で危機管理マニュアルのもと、セーフティ教室や不審者対応の避難訓練が計画的に実施されているにもかかわらず、いまだ子供たちが被害者となる痛ましい事件は起きている。大切な子供たちの命や安全を守るために、より確実な安全対策が求められている。そこで本単元では、企業 ALSOK の協力を得て、ALSOK「あんしん教室」を１０月に１年生で実施し、指導者自身が、登下校中の不審者への対応や身を守る方法を学ぶ機会を設けた。この授業を踏まえ、２年生での授業では、声かけ事案の具体的な場面をイメージさせ、自分で状況を判断し、安全な行動がとれるようにさせていく。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

・ロールプレイで役割演技をすることにより、自分で状況を判断し、安全な行動がとれるようにする。
・学習を振り返り、安全に生活していくために学んだことをワークシートに書かせることで、今後、学習したことを日常生活で生かす意識を高めることができるようにする。

5　指導計画(全２時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 本時	・不審者に声をかけられた時の行動の仕方を考える。 ・ロールプレイで実践し、理解する。	☆ロールプレイを行うことで具体的に理解させる。 ◇不審者に声をかけられたときの行動の仕方を考え、自分の身を守る方法を理解する。
2	・学習を振り返り、安全に生活していくために学んだことをワークシートに書く。	◎学習したことを日常生活で生かす意識を高めることができるように振り返る。 ◇不審者から身を守るためには、どうしたらよいか考えている。

6　本時の展開（1/2）

（1）　ねらい

不審者に声をかけられた時、どうすればよいか考え、自分の身を守る方法を理解する。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○代表の児童一人が、防犯ブザーを鳴らす。	◎机を端に片付けて、班ごとに分かれて座らせる。 ☆不審者事件について知らせる。(誰が、場所、時間)
ふしんしゃに声をかけられた時、どうしたらよいか考えよう。	
○危険から身を守る合言葉の「いかのおすし」について考える。 ・いかない。のらない。おおごえをだす。すぐにげる。しらせる。 ○「行かない」について考える。 ・ついて行かない人に手を挙げる。 ○「乗らない」について考える。 ・腕をつかまれて、車内に引きずりこまれることもあることを知る。 ・両腕を広げ、距離の取り方をやってみる。 ○「大声を出す」について考える。 ・班ごとに「助けて！」と叫ぶロールプレイをする。 ○「すぐ逃げる」について考える。 ・逃げるロールプレイをする。(走る。ランドセルを肩から外す。手をねじる。足をバタバタさせる。) ○「知らせる」について考える。 ・先生に不審者の人相や服装について伝えるロールプレイをする。	☆「○○ない」「○らない」「○おごえだす」「○ぐにげる」「○らせる」の５枚のボードを貼り、○に入る文字を考えさせる。理由やその反対の行動についても、考えさせていく。 ☆不審者とは、どんな人かについて教える。(いつもいない所にいる人、キョロキョロしている人、暗い所に立っている人) ☆映像をみて説明する。 ☆ロールプレイで実践し、大人の両腕は子供の両腕より長いことを比較させ、距離の取り方を押さえる。 ☆「ワー！」「キャー！」ではなく、「助けて！」と叫ぶことをおさえる。(防犯ブザーがあれば鳴らす。) ☆怖いと思ったら、すぐに逃げることを確認する。 ☆学区内に「子供１１０番」があることを確認する。 ☆近くの大人に不審者の特徴を伝えることをおさえる。(いつ、どこで、どんな人に、どんなふうに) ☆自分だけでなく友達が危ない目に合っていても、大人に伝えることをおさえる。
○学んだことを振り返る。	◎学習を振り返り、これから安全に生活するために学んだことを発表させる。
ふしんしゃに声をかけられた時は、「いかない。のらない。おおごえをだす。すぐにげる。しらせる。」	◇不審者に声をかけられたときの行動の仕方を考え、自分の身を守る方法を理解できたか。(ロールプレイ)

第３学年　特別活動：学級活動(交通安全)　　場所　第３学年１組　教室

自転車を運転していて相手にけがをさせてしまったら
～「自転車や歩行者の安全」から～

指導者　小林　理恵

1　題材の目標

・交通安全に関わる問題に関心をもち、自主的にその問題解決について考えたり取り組んだりする。
・加害事故についてのリスクとその責任について知る。

2　学習指導要領との関連

特別活動〔学級活動〕　２　内容（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成
現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3　題材について

本校では、3 年生頃から自転車に乗る児童がふつうである。そこで、3 年生では「自転車や歩行者の安全」という安全学習計画を立て、年間を通して計画的に進めている。４月に警察署と連携して、「自転車安全教室」を実施し、自転車の基本的な乗り方について学習した。6 月には、基本的な自転車の点検の仕方を学ぶとともに、信号や交通標識の表示する意味を正しく理解し、交通ルールやマナーを進んで守り、安全意識を高め、事故を回避する判断力の育成を図ってきた。また、通学路など道路の歩行については、日常指導の中で適宜行ってきた。１２月に２組の事前授業として、歩行者シミュレータによる歩行者の立場からの安全学習を行い、歩行者の安全についてのまとめをした。そして、本単元では、自転車は道路交通法では自動車と同じ車両であり、車両として交通ルールを守らなければならない。もし加害者になった場合の損害賠償責任は、小学生の場合、保護者がその責任を負うことになることを知り、自転車を取り巻くリスクとその責任についての理解も深め、自転車の安全のまとめをする。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

事故の経験のない児童に、実際に起こった事故の事例で考えさせることにより、自分が加害者になったときの責任の重さを考えさせる。事故を起こさないためには、これまで学習をしてきた自転車の安全な乗り方と、自転車安全利用五則を守り、自転車を安全に乗ることの重要性を考えさせていく。

5　指導計画(全４時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点 ☆安全教育の視点に立った留意点
1（4月）	自転車の安全な乗り方を知ろう	☆警察署と連携をした、「自転車安全教室」
2（6月）	自転車での事故を防ごう	☆自転車点検の仕方と交通ルール ◎自転車のルールを守らないと、自分がどのような事故に巻き込まれるのか考える。
3（12月）	身近な通学路にある危険を予測し、危険を回避する方法を考えよう（歩行者シミュレータ）	☆慣れた道での交通事故を予測させ、その回避する方法について考える。(歩行者シミュレータ)

4（2月）（本時）	自転車を運転して相手にけがをさせてしまったら	◎ルールを守らなかった場合の責任と賠償責任について知る。

6　本時の展開（4/4）

（1）　ねらい

・被害者になったときの責任と相手の気持ちについて考えることができる。

・自転車事故の原因を考え、ルールを守ることや安全な運転ができるようにする。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○自転車を運転しているときの事故について考え、話し合う。	◎被害事故だけではなく、加害事故についても紹介する。
自転車を運転していて相手にけがをさせてしまったら、どのようなことが起こるのか考える。	
○「JA 共済　自転車交通安全 DVD」（保護者編）を視聴し、事故の原因を考える。	☆自転車安全利用五則を想起させる。
○なぜ、このような事故を起こしてしまったのかを考える。 ・ワークシートに書き込む。	◇自転車事故の原因を考え、適切な行動を考えることができる。（発表） ☆自転車は車両の仲間であること、車道の左端を通行しなければならないことを確認する。 ☆歩行者優先であることを確認する。
○自転車事故で相手にけがをさせてしまった場合、どのような責任が起こるのか。	◎自転車は、車両と同じであり交通ルールを守らないと自転車の運転者側も責任を問われることを押さえる。
○自転車事故に備える保険があることを知る。	☆自転車で事故を起こしてしまった場合は、自転車保険というものがあることを教える。 ◎交通事故は、本人だけでなく、家族や友達などの周りの人間にも、人生を変えるほどの悪影響を与えることを理解させる。 ◇加害者は、一生罪の意識を背負って生きていくことを理解させる。 ◇責任について、話し合いを通じて考えを深めることができる。（発表）
○実際に自転車事故を起こしてしまった高校生の DVD を視聴して、本時を振り返る。	☆相手にけがをさせてしまい、家族や多くの人に迷惑をかけてしまうことがあることを知る。

第３学年　特別活動：学級活動　（交通安全）　　場所　どらさんルーム２

安全に通学しよう
～「自転車や歩行者の安全」から～

指導者　高木　裕一
協　力　日本交通安全教育普及協会

１　題材の目標

・交通安全に関わる問題に関心をもち、自主的にその問題解決について考えたり取り組んだりする。
・加害事故についてのリスクとその責任について知る。

２　学習指導要領との関連

特別活動〔学級活動〕　２　内容（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成
現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

３　題材について

本校では、3 年生頃から自転車に乗る児童がふつうである。そこで、３年生では「自転車や歩行者の安全」という安全学習計画を立て、年間を通して計画的に進めている。４月に警察署と連携して、「自転車安全教室」を実施、６月には、基本的な自転車の点検の仕方や信号や交通標識の表示する意味を正しく理解し、交通ルールやマナーを進んで守り、自転車乗車に対する安全意識を高め、事故を回避する判断力の育成を図ってきた。１月には、１組の事前授業として、自転車事故の加害者としての責任についても学んでいく。２組では日常指導で行っている「歩行者の安全」を取り上げ、歩行者の立場に立ち、歩行者シミュレータを活用して、通学路や慣れた道での様々な危険を予測し、危険予測・回避能力をさらに高めることで歩行者としての事故を防ぐための意識を高めていく。

４　安全教育の視点に迫るための手立て

「歩行者シミュレータ」を活用し、慣れた道路での思い込みや錯覚などによる危険性を感じ取らせ、自分で事故を回避する能力を高めることで、安全な道路の歩き方・横断の仕方を身に付けさせる。

５　指導計画(全４時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点 ☆安全教育の視点に立った留意点
１（４月）	自転車の安全な乗り方を知ろう	☆警察署と連携をした、「自転車安全教室」
２（６月）	自転車での事故を防ごう	☆自転車点検の仕方と交通ルール
３（１月）	自転車を運転して相手にけがをさせてしまったら	◎ルールを守らなかった場合の責任と賠償責任について知る。
４（２月） （本時）	身近な通学路にある危険を予測し、危険を回避する方法を考えよう（歩行者シミュレータ）	☆慣れた道での交通事故を予測させ、その回避する方法について考える。（歩行者シミュレータ）

6　本時の展開（4/4）

（1）　ねらい

通学路や慣れた道での危険を予測し、事故にあわないようにするための安全な歩行の仕方を考え、身に付けるようにする。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○通学路は何のためにあるのかを確認する。 ・できるだけ安全な道を通って通うため。 ・できるだけ事故にあわないで登下校するため。	◎交通事故から子供たちを守るために通学路があることを確認する。 ☆通学路の願いを考えさせる。
○通学路や慣れている道を通っていても事故にあうこともあることを知る。	◎通学路や慣れた道でも事故にあうのはなぜかを考えさせる。
通学路や慣れた道での安全な歩き方を考えよう	
○歩行者にとってどんな危険があるかを予想する。 ・急に自転車が飛び出してくる。 ・自動車が曲がり角から急に出てきた。	◇既習事項を思い出しながら考えている。 【思・判・表】(発表)
○「歩行者シミュレータ」を使って体験してみよう。 （4～5人のグループで体験する。他の児童は後方で見ながら体験する。） ・右・左・右の確認をして、横断歩道は手を挙げて渡ろう。 ・自転車が来るかもしれないから、車で陰になっているところでも確認して歩こう。 ・雨の日は、周りがよく見えないので、周りをよく見ながら気を付けて歩こう。	◎「歩行者シミュレータ」を操作し、グループごとに体験していく。 ☆夕方、雨、信号がない道など様々な場面での歩行について、「歩行者シミュレータ」で体験しながら安全な歩行の仕方について考える。 ◎危険を予測することの大切さについて押さえる。 ◇歩行者シミュレータで、危険予測と回避の仕方を意識して、安全に歩行している。【知・技】(態度)
○感想を出し合う。 ・思いがけない飛び出しにはドキッとした。 ・夕方や天気によって見え方が違う。 ・車の陰から自転車が出てきたよ。	◇通学路や慣れている道でも天気や時刻などの様々な条件によって、道路の様子が違い、歩行での注意も違ってくることに気付いている。 【学び】(発表)
○本時を振り返り、学んだことを話し合う。	◎実際に体験してみて、改めて気付いたことを発表させる。

第４学年　総合的な学習の時間（災害安全）　　場所　第４学年１、２組　教室

地震から身を守る行動を考えよう

指導者　第４学年１組　山根　潤
第４学年２組　飯村　良哉

1　題材の目標

地震発生時の危険と適切な対処について理解し、安全な行動ができるようにする。

2　学習指導要領との関連

総合的な学習の時間　２　内容
各学校においては、第１の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。
【探求課題：安全教育】
日本で起きた過去の地震災害を学び、東京都で起こるとされる首都直下地震について調べ、その回避行動や備えについて考え、災害から身を守り安全に行動できるようにする。

3　題材について

社会科「水害からくらしを守る」の学習で、自然災害から地域の安全を守るために自治体や地域が行っていることなどについては学習した。また特別活動の学級活動では、災害から身を守り、安全な行動をとることを学習した。本単元では、社会科と学級活動で学んだことを結び付け、地震発生時に自分で何ができるかを考えさせる。

１・２時間目では、過去に起こった地震について調べ、発生場所や時間によって二次災害の種類が違うことを理解させる。３時間目では、これまでの学習を生かし、東京都の地形や地域の特徴と被害の特徴との関連を考える。そして、被害を最小限にするために自分ができる行動を考えられるようにする。そこで社会科見学では「そなエリア東京」という防災体験学習を行うことができる施設に行き、首都直下地震の発生から避難までの一連の流れを体験したり、過去の資料を見たりして学びを深めてきた。本学習では、「そなエリア東京」での活動を生かし、地震の被害に対してどのような行動をとったらよいのか、どのような備えをしたらよいのかを考えていく。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

社会科の学習で培った意識をさらに高めるために、人々の「回避行動」や日頃の「備え」を分けて考えるよう指導していく。指導にあたっては地震の被害の実態を、被害の様子を伝える写真・映像などを通して捉えることで、地震発生時の危険を知り、危険を予測し回避する能力の育成につなげていく。

また、過去の3つの地震災害「関東大震災」「阪神淡路大震災」「東日本大震災」の主な被害の特徴がそれぞれ火災、建物や家具の転倒、津波であったということに気付かせる。そして、地震によって起きる二次災害について、実際に映像やデータで見ることを通して考え、命を守るための行動を考えさせていく。

5　指導計画(全３時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点 ☆安全教育の視点に立った留意点　◇評価
1	・日本は世界の中でも地震の多い国であることについて知る。 ・過去の大きな地震について知る。 ・関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災の動画を視聴する。 ・３つの地震からどのような被害があったのか考える。 ・3つの地震のデータを見て、火災、建物の倒壊や家具の転倒、津波が起き、被災者が出ていることを知る。 ・学習感想を書き、発表する。	◎過去の地震について、どのような被害があるか調べさせる。 ◎関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災の動画を視聴し、地震によって起きる被害がどのようなものか考える。 ◇過去の３つの大地震から起こった被害の特徴について理解する。【知・技】(学習感想)
2 **一組本時**	・東京都では、首都直下地震が起こると予想されていることを知る。 ・東京都の地形や地域の特徴からどのような二次災害が起きるか考える。	◎社会科で学習した東京都の地域の特徴を確認する。 ☆前時や社会科の学習などから東京で起こる被害について確認する。 ◎東京都の地域によって災害の種類を押さえる。 ◇大きな地震が発生したときの東京都の被害を予測している。【思・判・表】(ノート)
3 **二組本時**	・葛飾区で想定される二次災害について知る。 ・葛飾区で想定される災害に対しての回避行動などを考え、発表する。 ・「回避行動」と「備え」に分類する。 ・単元の振り返り	☆「回避行動」と「備え」を区別し、事前に色分けするように指導する。 ◎回避行動をタブレットに打ち込み班で共有する。 ◇自分の命を守るためにどのような行動をするのか考えている。【思・判・表】(ノート) ◎班で出た意見をタブレットで集約する。 ◎この学習を通して今後どのようなことをしていきたいか書く。

6　本時の展開（2/3）〈4年1組〉

（1）　ねらい

首都直下地震で東京都にはどのような被害がでるか考えることができる。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○前時の振り返りをする。 ○東京都では、３０年以内に７０％の確率でM7クラス程度の首都直下地震が起こるとされていることを知る。	◎東京で起きると思われる災害を確認する。 ※一次災害 倒壊、液状化、がけ崩れ、地割れ ※二次災害 津波、火災、停電、断水、ライフライン遮断、交通網の麻痺
首都直下地震で東京都はどのような被害がでるのか調べよう。	
○東京都の地域の特徴を調べる。 ・海に近い地域がある。 ・埋め立て地や田んぼがあった地域がある。 ・山に囲まれた地域がある。 ・新しい建物がたくさん建っている地域がある。 ・古い建物が密集している地域がある。	◎東京都の土地利用がわかる地図を活用する。 ◎社会科で学習した東京都の地域の特徴を確認する。 ☆前時に出た一次災害、二次災害の種類を確認する。
○どのような被害がでるか考える。 ・海が近いと津波の危険がある。 ・埋め立て地や田んぼがあった場所では液状化現象が起きやすい。 ・都市部は建物が多いため一度火災が起きると燃え広がる危険がある。 ・山岳地では、がけ崩れが起きる ・古い建物は倒壊する。 ○班で出た意見を東京都の地図にまとめる。	◇大きな地震が発生したときの東京都の被害を予測している。【思・判・表】（ノート） ◎班で出た意見を集約する。
○本時の学習を振り返る。	◎今回の学習を今後にどう生かすか考える。

6　本時の展開（3/3）〈4年2組〉

（1）　ねらい

二次災害を予測した上で、自分の命を守る行動について考える。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○前時の振り返りをする。	◎東京都で起きると思われる二次災害を確認する。
葛飾区で首都直下地震が起きた時の身を守る行動を考えよう。	
○葛飾区でも想定される二次災害について考える。 ・火災 ・断水 ・停電 ・津波	◎地震の発生場所や大きさによっては津波が発生する可能性はあるが、葛飾区まで到達する可能性は低いことを示す。 ☆学校、家、遊んでいるときなど様々な時間に突発的に起こることを想像させる。
○災害に対しての過程での回避行動などを考える。 ・ストーブが倒れ、ストーブの火が物に引火して火災となる可能性がある。火災が起きたら消火器を使い消火する。 ・地震が起きたら燃えそうなものをチェックし、火の元をなくす。 ・安全を確認する。 ・上から落ちてくるもの、横から倒れてくるものから身を守るためにテーブルの下に隠れる。 ・遊んでいる公園であれば中央に集まる。 ・消火器の使い方と場所を覚えておく。	☆「回避行動」と「備え」を区別し、事前に色分けするように指導する。 ◎回避行動をタブレットに打ち込み班で共有する。 ◇自分の命を守るためにどのような行動をするのか考えている。【思・判・表】（ノート）
○班で出た意見をまとめる	◎班で出た意見をタブレットに集約する。
○本時の学習を振り返る。 ○単元を通しての感想をワークシートに書く。	◎今回の学習が今後にどう生かされるか考える。 ◇地震発生時の危険と適切な対処法について理解し、安全な行動への意欲を高めている。 【学び】（ワークシート）

第５学年　社会科　（災害安全）　　場所　　第５学年１、２組　教室

自然災害からくらしを守るために

指導者　　５年１組　山川　浩司
５年２組　園部　あずさ

1　単元の目標

・自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や都などが様々な対策や事業を進めていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
・我が国の自然災害の発生と自然条件との関連、防災や減災に向けた対策や事業の役割について多角的に考える力、考えたことを説明する力を養う。
・我が国の自然災害の状況と国民生活との関連について、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

2　学習指導要領との関連

社会科
内容（５）
ア（ア）自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
イ（ア）災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
内容の取扱い
ア　アの（ア）については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。

3　単元について

日本の国土では様々な自然災害が繰り返し発生していることや、それらの被害を少しでも減らすために、国や都道府県、市町村などが協力し合い、様々な対策を計画的に進めている。そのことを、課題を追求したり解決したりする活動を通して、捉えていく。

その際、日頃から防災に関する情報に関心をもつなど、一人一人の防災意識を高めることが大切だと気付かせるようにする。近年にも、日本の各地で自然災害が発生しており、「防災」の重要性は児童たちも意識している。このような児童の意識や既有の知識・経験を学習の中で生かしていきたい。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

様々な自然災害の被害の実態を、写真・映像などの資料を通して捉えさせることで、自然災害の危険を知り、危険を予測し回避する能力の育成につなげていく。

また、調べたことをもとに、国や都道府県などの災害への対策・事業（公助）の意味や重要性、災害が多い国土に暮らす一員として取り組むべきことを考え、自らが進んで安全な行動を行うこと（自助）、さらに他者や社会の安全に貢献すること（共助）の資質や能力の育成につなげていく。

5　指導計画(全６時間)

時	主な学習活動	○指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	近年発生した自然災害に関する写真や地図などの資料を読み取り、自然災害の発生と国土の自然条件との関係について話し合う。	○白地図に発生場所を記入し、分布の傾向を考えることで自然条件との関係に気付けるようにする。 ◇自然災害の広がりや国土の自然条件との関連性を捉えている。
2	日本の自然災害の年表などを読み取り、過去の発生状況からわかったことや考えたことを整理し、学習問題をつくる。	☆各地での大地震の発生が高い確率で予測されていることから、自分たちも向き合わなければいけないという意識をもたせる。 ◇大規模な自然災害から国民生活を守る取り組みについての学習問題を作り、表現している。
3	国や都道府県などが進める津波への対策について具体例を見付けて調べ、わかったことや考えたことを話し合う。	○実際のハザードマップを実物やインターネットで見ることができるようにする。 ☆津波発生時の危険と適切な処置について理解し、安全な行動ができるようにする。 ◇今後発生が想定される津波の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。
4 **二組本時**	国や都道府県などが進める大地震への対策について具体例を見付けて調べ、わかったことや考えたことを話し合う。	○緊急地震速報の実際の映像や音声を聞かせる。 ☆大地震発生時の危険と適切な処置について理解し、安全な行動ができるようにする。 ◇今後発生が想定される大地震の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。
5 **一組本時**	国や都道府県などが進める水害への対策について、具体例を見付けて調べ、共有する。「減災」の考えや取組について話し合う。	☆自然災害の歴史を後世に伝える取組を通して、災害は繰り返し発生すること、完全には食い止められないことを確かめ、防災・減災の意識を高める。 ◇国や都道府県が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えている。
6	調べたことを自然災害の種類別に表に整理し、災害が発生しやすい国土の自然条件、災害への対策・事業と自分たちの生活との関わりなどについて考える。	☆自然災害と向き合う暮らしで大切だと思うこと、自分で取り組んでいきたいことを話し合うことで、自らの安全だけでなく他者や社会の安全に貢献できることを考えさせる。 ◇自然災害と自然条件の関連や災害から人々の生活や国土を守るために国や都道府県が対策・事業を進めていることを理解している。

6　本時の展開（4/6時）＜5年2組＞

（1）　ねらい

今後、大きな地震が起こる可能性が高いことを知り、国や都道府県が中心となって進めている大地震への対策や事業の役割を捉える。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○今後起こる大きな地震の発生予測や被害想定について知る。 ・南関東でマグニチュード7クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70%程度だ。(想定：首都直下地震) ・葛飾区は23区内で最も多くの死者数が想定されている。 ・火災を原因とする被害が多い。 ・建物の倒壊、家具の転倒や落下などによる負傷が多い。 ・避難者発生数も23区内で高い水準にある。 大きな地震からくらしを守るために、どのような対策が進められているのだろう。	☆緊急地震速報の実際の映像や音声を聞かせる。（導入） ☆「首都直下地震発生時の葛飾区周辺の被害想定」の資料を用いて、身近な問題として地震対策への興味をもたせる。 ◎タブレット端末に資料を配布し、カラー資料を手元で見られるようにする。
○国や都道府県などで進めている大地震への対策や事業について、資料から具体例を見付けて調べ、ノートに整理する。 ・防災都市づくり（火災対策） ・住宅・建造物の耐震化の促進（負傷者対策） ・帰宅困難者対策の推進（避難者対策） ・TEC　FOUCE（被災地の早急の復旧・復興） ・緊急地震速報の活用・理解（すばやい避難へ）	◎対策や事業は、どんな被害想定と対応しているか考えることで、その役割を捉えさせる。 ☆広い範囲で有効な対策を進めるうえでは、国や都道府県が主導して進める必要のある事業も多いことを捉えさせる。 ◇地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後発生が想定される大地震の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。【知・技】(ノート)
○整理されたことをもとに、大地震への対策についてわかったことをまとめる。 ・大地震に備え、火事や揺れに強い町づくりや、すばやい避難につなげるしくみづくりなど、国や都が中心をなって進めている。 ○津波や地震以外の自然災害対策について調べる見通しをもつ。	☆第4学年の学習や生活経験を振り返りながら、個人・地域レベルでも取り組むべき防災の備えも重要であることも意識付けていく。

7　本時の展開（5/6）＜5年1組＞

（1）　ねらい

各地の大規模な水害などへの対策や、自然災害の被害を後世に伝える取組に着目して、国や都道府県が中心となって進める事業の役割を捉えるとともに、防災・減災への意識を高める。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○日本では地震や津波以外にどんな種類の自然災害が起こっていたのか1，2時を振り返る。 ・河川の氾濫による洪水や土砂災害 ・大雪や火山の噴火による被害 大規模な水害からくらしを守るために、どのような対策が進められているのだろう。	☆令和元年台風１９号で避難勧告が出たことなどから、災害に遭う可能性は高いことを捉えさせる。 ☆大きな台風が来ても江戸川が氾濫しなかったことに触れ、なぜなのかを考えさせる。
○国や都道府県などで進めている水害への対策について、教科書や資料集などから具体例を見付けて調べる。 ○ノートに整理した情報を共有する。 ・首都圏外郭放水路　・防災アプリ ・渡良瀬遊水地　・水防訓練 ・荒川放水路 ・ハザードマップ	☆葛飾区ハザードマップで柴又を探し、災害を自分事としてとらえる。 ◎葛飾区がこれまでに取り組んでいた水害対策の資料をタブレット端末に配信し活用できるようにする。 ◇災害の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、国や都道府県が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えている。【知・技】【思・判・表】（ノート）
○整理されたことをもとに、水害への対策についてわかったことをまとめる。 ・水害に対しても国や県が中心となって被害を少しでも小さくする取り組みが進められている ○防災には限りがあり「減災」という考えのもと、災害やその対策についてよく知り、備えに生かすことが大切であることを教科書の事例等から読み取る。 ・昔の被害の歴史を忘れずに生かそうとする人たちがいる。 ・自然災害やその対策のことをよく知り、少しでも被害を減らしていけるようにするのが大切である。 ・自然被害を完全に防ぐのは難しいので、減災の考え方は大切である。 ○本時の学習を振り返る。	☆自然災害の歴史を後世に伝える取組を通して、災害は繰り返し発生すること、完全には食い止められないことを確かめ、一人一人の防災・減災への意識を高める。

第６学年　特別活動：学級活動　（生活安全）　　場所　第６学年１組　教室

スマートフォンや携帯電話の使い方を考えよう

～ インターネットや SNS について「使い方マイルール」を作ろう ～

指導者　村越　未奈

1　題材の目標

スマートフォン、携帯電話等を使用するときの危険、インターネットや SNS に関するトラブルやサイバー犯罪について理解し、安全に利用できるようにする。

2　学習指導要領との関連

特別活動〔学級活動〕　２ 内容（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3　題材について

携帯電話やスマートフォンの使用状況を調べると、通信型ゲームや動画投稿サイト、無料通話アプリ、SNS などがあり、多くの児童がインターネット上でコミュニケーションを図っている。しかし、家庭で決めた使用時間やルールを守ろうとする意識は必ずしも高いとは言えず、トラブルや危険性について理解はしているものの自分の身に起こる可能性があると考えていない児童も多い。本題材では、身近で具体的な事例を用いることで、誰でもトラブルに巻き込まれる危険性があることを実感させ、実生活と深くつながっているインターネットや SNS を適切に活用するためにどうしたら良いかについて考えさせていく。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

・インターネットや SNS の便利さを実感させると共に、トラブルが生じやすいことにも気付かせ、情報発信することの大切さについて考えさせる。

・実話をもとにした教材を使用することにより、インターネットや SNS 上のトラブルを自分にも起こりえる身近な問題として捉えさせる。

5　指導計画(全４時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 ・ 2	ネットトラブルに関する事例を基に、インターネットをどのように使用したら良いか考える。	◎事前にアンケートを取り、インターネットや SNS 上で起こりうるトラブルについて共有する。 ◎実際に起きたトラブルを挙げ、なぜ起こったのか、どうすれば良かったのかなどについて考えさせる。 ☆SNS 東京ノートを活用し、個人情報の投稿やネットいじめなどの不適切な使用方法について法の遵守の観点からも考えさせる。 ☆インターネットや SNS 上でも人の気持ちを考えることが大切だと気付かせる。 ◇ネットトラブルについて理解し、ネットをどのように使用したら良いかについて考えている。

3 **本時**	インターネットや SNS とどのように付き合ったらよいか「使い方マイルール」を考える。	◎前時までの学習を振り返り、「時間、場所、気を付ける事」などの使い方マイルールを考えさせる。 ☆なぜ、そのルールが必要かについて考えさせ、これからの生活に生かせるようにする。 ◇自分の生活に合った「使い方マイルール」を作成している。
4	使い方マイルールについて紹介し合う。	☆保護者会や学年だよりで子供たちの取り組みの様子を紹介し、家庭でも守ろうとする意識も高める。

6　本時の展開（3/4）

（1）　ねらい

スマートフォン・インターネットや SNS の利便性と危険性を理解し、安全に活用するための「使い方マイルール」を考えることができる。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○前時の学習から、SNS の使い方について振り返る。	◎前時までに学習したことからインターネットや SNS の利便性や危険性について確認する。 ☆SNS の便利さと危険性について再度確認し、危険に巻き込まれないようにルールが必要であることを意識させる。
インターネットや SNS についての「使い方マイルール」を決めよう。	
○「使い方マイルール」を考える。 ・インターネットや SNS の危険性や使い方等を振り返り、使用時にどのようなルールが必要かを考える。 〈マイルール(例)〉 ・使用時間は９時までにし、寝るときはリビングに置く。 ・歩きスマホをせずに、立ち止まって見る。 ・知り合いの写真を勝手にアップしない。 ・アプリや課金したい時は、親に言う。 ・メールを読む人の立場になって送信する。 ・できるだけ会って伝える。　など	◎SNS 東京ルールや SNS かつしかっ子ルール、SNS 柴又小ルールを押さえ、一般的なルールから自分の生活に合わせたマイルールを考えられるようにする。 ◎「利用時間、時間帯、場所、気を付ける事」など、項目を提示して考えやすくさせる。 ◎現在、スマホやタブレットを所持していない児童も持った時に「自分ならインターネットや SNS をどう使いたいか」という視点をもって考えるように助言する。
○グループで発表し合う。	◎友達の意見を聞いて考えを広げ、深めさせる。 ☆なぜ、そのルールを設定したのかについても発表させ、これからの生活に生かせるようにする。
○使い方マイルールを決定する。 ・自分の生活にあわせた「使い方マイルール」を作成する。	◎特に大切にしたいルールを３つに絞らせる。 ☆インターネットや SNS の使い方を振り返らせ、自分にあった具体的なルールを設定させる。 ◇自分の生活に合った「使い方マイルール」を作成している。(ワークシート)
○自分がもし、トラブルに巻き込まれた時にどう対処するか考える。	◎定期的に自分や周りの状況を振り返り、ルールを確認したり見直したりする必要があることを押さえる。 ☆インターネットや SNS のトラブル相談窓口なども存在することを知らせる。

第６学年　体育科(生活安全)　　場所　第６学年２組　教室

救急救命について学ぼう

～ ＡＥＤの使い方を知り、人が倒れたとき、勇気を出してかかわろう～

指導者　杉本　久枝

1　単元の目標

救急救命について学び、救命の知識と技術の習得を図るとともに、救命には人と人との協力が大切であることに気付くことができるようにする。

2　学習指導要領との関連

Ｇ保健　（２）　けがの手当て

ア　けがをしたときは、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。

3　単元について

児童は、これまでに体育科（保健領域）の授業で、「けが人がでたときの対処法」について学び落ち着いて観察・判断し、必要に応じて救急機関に知らせること、意識のない大きなけがの場合は、動かさないことやＡＥＤが必要になることもあることを理解している。

来年度からは、中学生になり部活動も始まり、今まで以上にけがに遭遇することがある。また、学校以外でも、自宅で家族の誰かが倒れてしまう状況なども考えられる。救急車が到着するまでの間に適切な救命措置をすることによって、命を救うことができることを理解するとともに、自他の命を大切にしていこうとする意識をもたせていく。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

本校では、心肺蘇生法やＡＥＤを使用しての実習を様々な場で行い、緊急時の対応において児童一人一人が真剣に取り組み、救命に対する意識向上を目指している。救急救命の知識と技術の習得の他、家族を助けたい思いや周囲の人に協力を求めようとする必死の思いを想起させながら、人を思いやる心や人と協力することの大切さについて実技を通して体得させたい。この学習では，ＡＥＤと胸骨圧迫の方法、救急救命の大切さを学び、タブレット端末を活用してまとめる。

5　指導計画(全３時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 本時	救急救命について学び、救命の技術を習得する。【ＡＥＤ実技講習】	◎適切な応急処置には、技能を習得する必要があることを理解させる。
2	実際に救命法を活用できるように、学んだことまとめる。	◇講習で習得したことや自分の考えをわかりやすくまとめている。
3	まとめた内容をプレゼンできるようにする。	☆大切な点をわかりやすく表現し、今後の安全行動につなげる。

6　本時の展開（1/3）

（1）　ねらい

救急救命について知り、身近で人が倒れる場面に遭遇した際に、自分にもできることがあるということに気付き、状況に応じて積極的に行動できるようにする。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○救急救命の大切さや心肺蘇生の必要性を学ぶ。 ○人が倒れた場面に遭遇した時の対応について考える。	◎体育科（保健領域）の授業で学んだ『落ち着いて観察・判断し、必要に応じて救急機関に知らせること、意識のない大きなけがの場合は，動かさないことやＡＥＤが必要であること』を想起させる。
学校や地域で、人が倒れた時の対応の仕方を学び、ＡＥＤの使い方をマスターしよう	
○動画「命をつなぐバトン」を視聴する。 ・救急救命の大切さを知る。 ・素早い処置の必要性を知る。 ○心肺蘇生法とＡＥＤの使い方を知る。 ○「PUSH&ＡＥＤ体験セット」を使い、二人組になって、シミュレーションを行う。 ①周囲の安全確認 ②反応の確認 ③１１９番通報 ④呼吸の確認 ⑤胸骨圧迫 ⑥ＡＥＤによる処置 ○学校内のＡＥＤ設置場所や地域の設置場所を確認する。	◎ＡＥＤを使用することにより、救命率が上がり、回復が早まることを理解させる。 ☆周囲の大人に、助けや協力を求めることが、救命の大切な行為であることを理解させる。 ☆具体的な身近な例を知ることにより、自分のこととして考えを深められるようにする。 ☆社会の一員として、自分にもできることがあると考え、自他の命を大切にしていこうとする意識をもたせる。 ◎実際に遭遇した場面に対応できるよう、PUSH&AED体験セット(日本AED財団監修)を使い、実際に遭遇した際に対応できるようにさせる。 ◇ＡＥＤの使い方の練習に進んで取り組もうとしている。【知・技】（活動） ◎ＡＥＤ設置マップを活用し、地域には、健康と安全を守るために、AED が設置されていることを理解できるようにする。
○本時を振り返り、学んだことを書く。 ○体験を通してもった感想を発表する。	◇心肺蘇生法やＡＥＤの機能及び役割を振り返り、緊急時の対応のしかたについて理解している。【知・技】（発表） ☆心肺蘇生法やＡＥＤの利用は、大切な救命対応であるので、「自分にできること」を理解し、勇気をもって行動できるようにする。

生命(いのち)の安全教育について

性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、その心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼすことから、その根絶に向けた取組を強化する必要から、令和2年6月、内閣府、法務省、文部科学省などの関係府省による「性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議」において、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」が決定しました。

性犯罪・性暴力の根絶に向けて、誰もが、性犯罪・性暴力の加害者にも、被害者にも、傍観者にもならないよう、令和2年度から令和4年度までの3年間を、性犯罪・性暴力対策「集中強化期間」として、教育・啓発の強化などの実効性ある取組が求められました。

この方針を踏まえ、令和2年度に文部科学省と内閣府が連携して、有識者の意見も踏まえ、「生命の安全教育」のための教材及び指導の手引きが作成されました。そして、この教材、手引書を活用した「生命の安全教育」の取組が動き出しています。

概要

・発達段階(幼児・小学校・中学校・高校・大学等)に応じた、「生命を大切にする」「加害者にならない」「被害者にならない」「傍観者にならない」ための教育の実施。
・具体的には、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度などを、発達段階に応じて身に付けることを目指すもの。
・対象は、幼児(就学前の教育・保育)、小学校、中学校、高校、大学などで、特別支援教育では、障害のある児童生徒等の個々の障害の状態や特性及び発達の状態などを踏まえて小、中学校向け教材を活用して実施。
・実施方法としては、児童生徒の発達の段階や学校の状況を踏まえて、教材・指導の手引きを活用しながら実施。このほか、学校教育活動全体で性暴力被害防止に向けた取組も実施。

小学校の内容

・「水着で隠れる部分」は自分だけの大切なところ
・相手の大切なところを、見たり、触ったりしない
・いやな触られ方をした場合の対応　　等

※詳しくは、文部科学省ホームページ「生命の安全教育」参照

さくら学級　生活科　（生活安全）　　場所　第１～３学年　さくら１教室
第４～６学年　さくら２教室

生命の安全教育「自分も友達も守ろう」

指導者　さくら１　Ｔ１山田　晶子　Ｔ２小林　裕恵
さくら２　Ｔ１油井　純代　Ｔ２髙橋　竜海

1　単元の目標

・体の大切な部分に気付き、自分と相手の体を守るための行動ができるようにする。
・自分の心や体が守られていないと感じたときの対処方法を考えることができるようにする。

2　学習指導要領との関連

特別支援学校小学部学習指導要領
生活科　２　１段階の内容
イ　安全　　危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ア）身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。
（イ）安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。

3　単元について

本学級は、概ね１～２学年程度の知的発達の遅れがある児童が在籍している。精神的な幼さから、生活の中では、大人に抱き着いたり友達同士で接触したりする場面が多く見られる。また、人との距離感がわからず、相手が嫌がっていても近づいたりその接触を拒めなかったりする児童もいる。

本単元では、「見ない・見せない」「触らない・触らせない」というキーワードを基に、なぜ他人に気軽に触ったり触らせたりしてはいけないのかを考えさせる。体の大切さに気付かせ、様々な場面における自分の身の守り方を考え、日常的に自分と相手の体を守るための行動を意識させていく。

4　安全教育の視点に迫るための手立て

令和２年度文部科学省・内閣府が合同となり、「生命の安全教育」が作成された。「生命の安全教育」の趣旨は、性暴力・性犯罪の加害者、被害者、傍観者にさせない教育であり、特別支援学級に在籍する児童にとっては、重要な教育であると考える。そこで、具体的な指導の工夫として、イラストやクイズ、ロールプレイ等で、視覚的にも体の大切さや自分や相手の身体を守るための行動に気付かせ、「生命の安全教育」の趣旨につながる意識・態度の育成を図っていく。また、学習の要点をわかりやすい言葉でまとめ、キーワードやハンドサインを繰り返し練習することで、生活の中に生かせるようにしていく。

5　指導計画(全２時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	体の大切な部分について知り、自分と相手の体を守るための行動について考える。	☆体の大切な部分や体を守るための行動について、分かりやすい言葉でまとめて理解を促す。 ◇「水着ゾーン」や「マモルンジャー」の言葉とハンドサインの意味を理解し、適切に活用している。
2	自分の身の守り方や、守られていないと感じたときの対処方法を考え、実践する。	◎日常生活の場面を取り上げて、具体的にイメージしながらロールプレイを行わせる。 ◇場面に合った自分の身の守り方を考えている。

6　本時の展開（1/2）〈さくら1〉

（1）　ねらい

体の大切な部分に気付き、自分や相手の体を守るための行動について考えることができる。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○スライドショーを見て、体の大切にしなくてはいけない部分について知る。 ・プールに水着で入る理由や意味を考える。 ・体には見せてはいけない部分があることを知る。 ○本時のめあてを知る。	◎冒頭に、自分や相手の体を守るための大切な学習であることをおさえる。 ◎スライドショーを用いて、児童の興味・関心を引く。 ☆学校場面や生活場面を取り上げて、日頃から体を見せたり触ったりする場面があることに気付かせる。 ☆「水着ゾーン」という言葉を使い、体の大切な部分をおさえる。 ◇体の大切な部分（水着ゾーン）の意味と場所を理解している。【知・技】（発言）
じぶんと　みんなの　からだを　まもる　ほうほうを　しろう。	
○クイズを通して、自分と相手の体を守るための行動について考える。 ・着替えるときに、水着ゾーンを見せないようにする。 ・相手が着替えているときは、見ない。 ・相手が嫌がるところ（水着ゾーン）は、触らない。 ・自分の水着ゾーンは、触らせない。 ○場面に合わせて、体を守るためにどのように行動したら良いのかを考える。 ・「マモルンジャーすごろく」	◎ストーリー仕立てのクイズにして、場面に応じてどのように行動すれば良かったかを考えさせる。 ◎マモルンジャーのイラストから、場面に合わせた望ましい行動を考えられるようにする。 ☆水着ゾーンは守らなくてはいけない部分であることを繰り返し確認する。 ☆ハンドサインを使って、体を守るための具体的な行動の仕方を考えさせる。 ◎グループに分かれることで、自分の考えを周囲に伝えられるようにする。 ☆生活場面が描かれたイラストを見せ、場面に応じた行動の仕方（マモルンジャー）を選択させる。 ☆ハンドサインを繰り返し使わせて、生活の中でも使えるようにしていく。
○本時の学習を振り返る。 ・体の大切な部分「水着ゾーン」 ・自分と相手を守る行動「マモルンジャー」	◎タブレットを活用して、一人一人が自分の意見を書き込み、全体で共有できるようにする。 ☆「マモルンジャー」に気を付けることで、自分だけでなく、相手を守る行動につながることをおさえる。 ◇「水着ゾーン」や「マモルンジャー」の意味とハンドサインを理解し、適切に活用している。【学び】（表現）

6　本時の展開（2/2）〈さくら2〉

（1）　ねらい

嫌な触られ方をしたときや、自分の心と体が守られていないと感じたときに取るべき行動を理解し、相談できる相手を考えられる。

（2）　展開

学習活動　学習内容	◎指導上の留意点　◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
○前時の復習をする。 ・水着で隠れる場所（プライベートゾーン）は「見ない」「見せない」「触らない」「触らせない」。（ジェスチャー） ・人によって嫌に思う距離感が違う。 ○本時のめあてを知る。 自分の心と体を守るためにどうしたらよいか考えよう。	◎イラストなどを見せて思い出させる ◇キーワードを言いながらジェスチャーで表現している。【学び】（ジェスチャー）
○よいタッチ悪いタッチのカードを分けよう。 ・タブレットを使って相手や場面の違うタッチを自分の感覚で二つに分ける。 ・どのように分けたかを大型提示装置に示されたものを共有する。	◎場面の理解ができない児童には具体的な動作を行わせる。 ◇タブレットで、よいタッチ、悪いタッチを自分で分けている。 ◇嫌なタッチは人によって違うこともあるが、人が嫌がることはしないことを共有している。 【知・技】（発表）
○嫌なタッチをされそうになったりされたりしたときにどうしたらいいか考える。 ・例題をみんなで考える。 ・ワークシートに記入する。 ・一人で考えられないと訴え、ヒントカードをもらう。 ・映像を見てロールプレイで演じる。 ・声を出したり逃げたりする。	◎声を出したり逃げたり相談したりすることを確認する。 ◎選択肢を用意して話し合わせる。 ◎自力解決ができない児童にはヒントカードを渡す。 ◇嫌なタッチをされそうになったりされたりしたときの行動を理解している。【知・技】（ロールプレイ）
○まとめをする。 ・自分を守るためにどうするかをワークシートに記入する。 ・相談できる人を考える。	◎自立解決できない児童には選択肢を描いたヒントカードをわたす。 ☆性被害に合わないことを意識させる。 ◎実際の事件を紹介し身近なこととして考えられるようにする。 ◎被害に合った人は決して悪くないことを知らせる。 ◇拒否の気持ちを表現したり、相談相手を考えたりできる。【思・判・表】（ワークシート）

全国・東京都学校安全教育研究大会のあゆみ

回	全安研会長 都安研会長	期　日	大　会　主　題	会　　場
1	全 柏　茂夫 都 柏　茂夫	昭和 51 年 6 月 29 日（火）	学校安全教育の現状と問題点の解明	東京都港区立青南小学校 （柏 茂夫 校長）
2	全 柏　茂夫 都 石井 善一	昭和 52 年 11 月 24 日（木）	これからの学校安全教育の方向と その実践のあり方	東京都千代田区立佐久間小学校 （石井 善一 校長）
3	全 石井 善一 都 石井 善一	昭和 54 年 2 月 6 日（火）	学校教育における安全指導の展開	東京都千代田区立佐久間小学校 （石井 善一 校長）
4	全 三枝源一郎 都 三枝源一郎	昭和 55 年 2 月 5 日（火）	学校における安全教育の実践	東京都渋谷区立大向小学校 （三枝 源一郎 校長）
5	全 三枝源一郎 都 新井 三郎	昭和 56 年 11 月 11 日（火）	学校における安全教育の充実	千葉県船橋市立演湊町小学校 （半田 文江 校長）
6	全 三枝 源一郎 都 新井 三郎	昭和 57 年 3 月 4 日（木）	学校安全教育の今日的課題の解明 ～地域をふまえた学校安全教育の推進～	東京都新宿区立淀橋第一小学校 （古島　稔 校長）
7	全 大橋 一憲 都 新井 三郎	昭和 58 年 2 月 28 日（月）	学校安全教育の充実と推進 ～地域の特性をふまえた安全教育～	東京都葛飾区立高砂小学校 （高橋 文治 校長）
8	全 大橋 一憲 都 新井 三郎	昭和 59 年 2 月 24 日（金）	学校安全教育の充実と推進 ～地域の特性をふまえた安全教育～	東京都港区立南山小学校 （磯崎 乙彦 校長）
9	全 大橋 一憲 都 古島　稔	昭和 60 年 3 月 5 日（火）	学校安全教育の充実と推進 ～指導場面の特性を活かした指導～	東京都文京区立元町小学校 （原口 通子 校長）
10	全 新井 三郎 都 磯崎 乙彦	昭和 61 年 2 月 27 日（木）	安全に行動できる子どもの育成をめ ざして～人間工学的視点から～	東京都大田区立立山小学校 （厚地 大司 校長）
11	全 新井 三郎 都 村田 績雄	昭和 62 年 2 月 20 日（金）	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～子どもの発達段階をふまえて～	東京都板橋区立大山小学校 （村田 績雄 校長）
12	全 大竹 章善 都 小嶋 孝夫	昭和 63 年 2 月 26 日（金）	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～子どもの発達段階をふまえて～	東京都品川区立第二延山小学校 （小嶋 孝夫 校長）
13	全 大竹 章善 都 小嶋 孝夫	平成元年 2 月 10 日（金）	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～自ら安全な生活に立ち向かう児童・生徒の育成～	東京都品川区立第二延山小学校 （小嶋 孝夫 校長）
14	全 大竹 章善 埼玉 鈴木 文雄 （埼安研会長）	平成元年 11 月 10 日（金）	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～児童・生徒の発達段階をふまえて～	埼玉県八潮市立八潮第七小学校（米本 洋一 校長） 埼玉県八潮市立八潮中学校（加藤　功 校長） 埼玉県八潮市立八潮高等学校（荒木 貞行 校長）
	全 大竹 章善 都 木下 靖正	平成 2 年 2 月 8 日（木）	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～自ら安全な生活に立ち向かう児童・生徒の育成～	東京都板橋区立金沢小学校 （木下 靖正 校長）
15	全 檜山 克美 都 笠原 恒雄	平成 3 年 2 月 8 日（金）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都東大和市立第四小学校 （笠原 恒雄 校長）
16	全 檜山 克美 都 樋　喆男	平成 4 年 2 月 7 日（金）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都板橋区立緑小学校 （樋　喆男 校長）
17	全 黒瀬 忠生 都 古川 絢子	平成 5 年 2 月 2 日（火）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都葛飾区立住吉小学校 （古川 絢子 校長）
18	全 黒瀬 忠生 都 四十九院公洋	平成 6 年 2 月 3 日（木）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都足立区立梅島小学校 （四十九院 公洋 校長）
19	全 川邊 重彦 都 四十九院公洋	平成 7 年 2 月 16 日（木）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都足立区立千寿桜小学校 （金子 美江子 校長）
20	全 川邊 重彦 都 四十九院公洋	平成 8 年 2 月 9 日（金）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都文京区立窪町小学校 （川邊 重彦 校長）
21	全 四十九院公洋 都 伊東 英明	平成 9 年 2 月 13 日（木）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 （伊東 英明 校長）
22	全 宇津木順一 都 諸藤　登	平成 10 年 2 月 13 日（金）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都港区立赤坂小学校 （木村 美千子 校長）

回	全安研会長 都安研会長	期　日	大　会　主　題	会　　場
23	全 宇津木順一 都 諸藤　登	平成 11 年 1 月 29 日（金）	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都港区立白金小学校 （諸藤　登 校長）
24	全 諸藤　登 都 清水　豊	平成 12 年 2 月 8 日（火）	自他の生命を尊重し、健康で安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都足立区立千寿第五小学校 （清水　豊 校長）
25	全 清水　豊 都 岩切 玲子	平成 13 年 2 月 6 日（火）	自他の生命を尊重し、健康で安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都文京区立礫川小学校 （岩切 玲子 校長）
26	全 岩切 玲子 都 久富美智子	平成 14 年 2 月 7 日（火）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都板橋区立志村小学校 （久富 美智子 校長）
27	全 岩切 玲子 都 池田　實	平成 15 年 2 月 20 日（木）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都葛飾区立東金町小学校 （池田　實 校長）
28	全 池田　實 都 林　正樹	平成 16 年 2 月 12 日（木）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都足立区立千寿小学校 （林　正樹 校長）
29	全 林　正樹 都 米山 和道	平成 17 年 2 月 18 日（金）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都文京区立千駄木小学校 （米山 和道 校長）
30	全 林　正樹 都 米山 和道	平成 18 年 2 月 17 日（金）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都江戸川区立清新第一小学校 （池田 光生 校長）
31	全 米山 和道 都 小林 元子	平成 19 年 2 月 16 日（金）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全文化の創造～	東京都目黒区立五本木小学校 （小林 元子 校長）
32	全 小林 元子 都 矢萩 惠一	平成 20 年 2 月 15 日（金）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全文化の創造～	東京都足立区立西新井第一小学校 （矢萩 惠一 校長）
33	全 矢萩 惠一 都 沢田　明	平成 21 年 2 月 13 日（金）	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全文化の創造～	東京都台東区立浅草小学校 （沢田　明 校長）
34	全 沢田　明 都 矢崎 良明	平成 22 年 2 月 12 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都板橋区立高島第一小学校 （矢崎 良明 校長）
35	全 矢崎 良明 都 芳森 信夫	平成 23 年 2 月 4 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都八王子市立第一小学校 （川上 卓一 校長）
36	全 矢崎 良明 都 矢崎 良明	平成 24 年 2 月 10 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都板橋区立高島第五小学校 （原野　隆 校長）
37	全 矢崎 良明 都 井口 信二	平成 25 年 2 月 15 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都台東区立金竜小学校 （牛島 三重子 校長）
38	全 井口 信二 都 永山 満義	平成 26 年 2 月 21 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都葛飾区立花の木小学校 （井口 信二 校長）
39	全 井口 信二 都 永山 満義	平成 27 年 2 月 13 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都世田谷区立塚戸小学校 （永山 満義 校長）
40	全 井口 信二 都 永山 満義	平成 28 年 2 月 12 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都武蔵野市立本宿小学校 （佐々木 克二 校長）
41	全 永山 満義 都 平松有理子	平成 29 年 2 月 17 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都江東区立第一大島小学校 （山田 誠一 校長）
42	全 永山 満義 都 平松有理子	平成 30 年 2 月 9 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都世田谷区立三軒茶屋小学校 （平松 有理子 校長）
43	全 木間 東平 都 伊藤　進	平成 31 年 2 月 15 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都墨田区立外手小学校 （新村　出 校長）
44	全 木間 東平 都 伊藤　進	令和 2 年 2 月 14 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都調布市立第五中学校 （髙汐 康浩 校長）
45	全 木間 東平 都 伊藤　進	令和 4 年 2 月 4 日（金）	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都葛飾区立柴又小学校 （木間 東平 校長）

※令和 2 年度研究大会については、新型コロナウイルス感染症の影響で延期とした。

令和３年度　　学校安全教育研究会　組織

＜相談・助言役＞

特別顧問	戸田　芳雄（日本安全教育学会理事長・明海大学客員教授）			
顧　　問	四十九院公洋	清水　　豊	岩切　玲子	久富美智子
	池田　　實	小林　元子	矢萩　惠一	沢田　　明
	芳森　信夫	矢崎　良明	澤野　明夫	井口　信二
	永山　満義	平松有理子	桶田ゆかり	鳥塚　惠子

＜全国学校安全教育研究会＞

会　　長	木間　東平	葛飾区立柴又小学校　校長
副 会 長	渡部佳代子	江東区立第五砂町幼稚園　園長
	角田　成隆	足立区立足立小学校　校長
	伊藤　　進	葛飾区立花の木小学校　校長
事務局長	濱脇　哲也	東大和市立第一小学校　校長
事務局次長	津田　昌明	葛飾区立道上小学校　校長
事務局員	本多　　亨	千葉県千葉市立千城台西中学校　教諭
	木次　勝義	前副会長＜島根県＞学校安全教育研究所教授
	長岡　佳孝	前副会長＜山形県＞学校安全教育研究所教授
	津布久郁夫	前全安研事務局長＜東京都＞
	山田　誠一	前都安研副会長＜東京都＞江東区教育委員会
	原野　隆	元都安研研究部長＜東京都＞
会計部長	吉羽　優子	文京区立小日向台町幼稚園　園長
監　　事	山元　敬子	八王子市立片倉台小学校　校長

＜東京都学校安全教育研究会＞

会　　長	伊藤　　進	葛飾区立花の木小学校　校長
副 会 長	渡部佳代子	江東区立第五砂町幼稚園　園長
	佐々木克二	世田谷区立東深沢小学校　校長
	山田　　明	墨田区立業平小学校　校長
事務局長	堀内　康博	葛飾区立上平井小学校　校長
事務局次長	原田　英徳	葛飾区立西小菅小学校　校長
事務局員	西原　洋一	大田区立矢口東小学校　主幹教諭
研究部長	高汐　康浩	府中市立府中第二中学校　校長
副 部 長	原　　洋子	江戸川区立松本小学校　副校長
	黒田　博之	世田谷区立明正小学校　副校長
	中澤　郁実	杉並区立浜田山小学校　主任教諭
部　　員	渡邊　利枝	調布市立第五中学校　主任養護教諭
	橋詰　　貴	町田市立南成瀬中学校　主任教諭
	小川　雄也	調布市立神代中学校　教諭
広報部長	坂井由利子	国分寺市立第十小学校　校長
副 部 長	安藤　力也	調布市立多摩川小学校　校長
	松本　麻巳	江東区立小名木川小学校　副校長
会計部長	立石　晃子	荒川区立南千住第二幼稚園　園長
副 部 長	吉羽　優子	文京区立小日向台町幼稚園　園長
監　　事	村田有美子	江東区立大島幼稚園　園長

あとがき

全国学校安全教育研究会事務局長

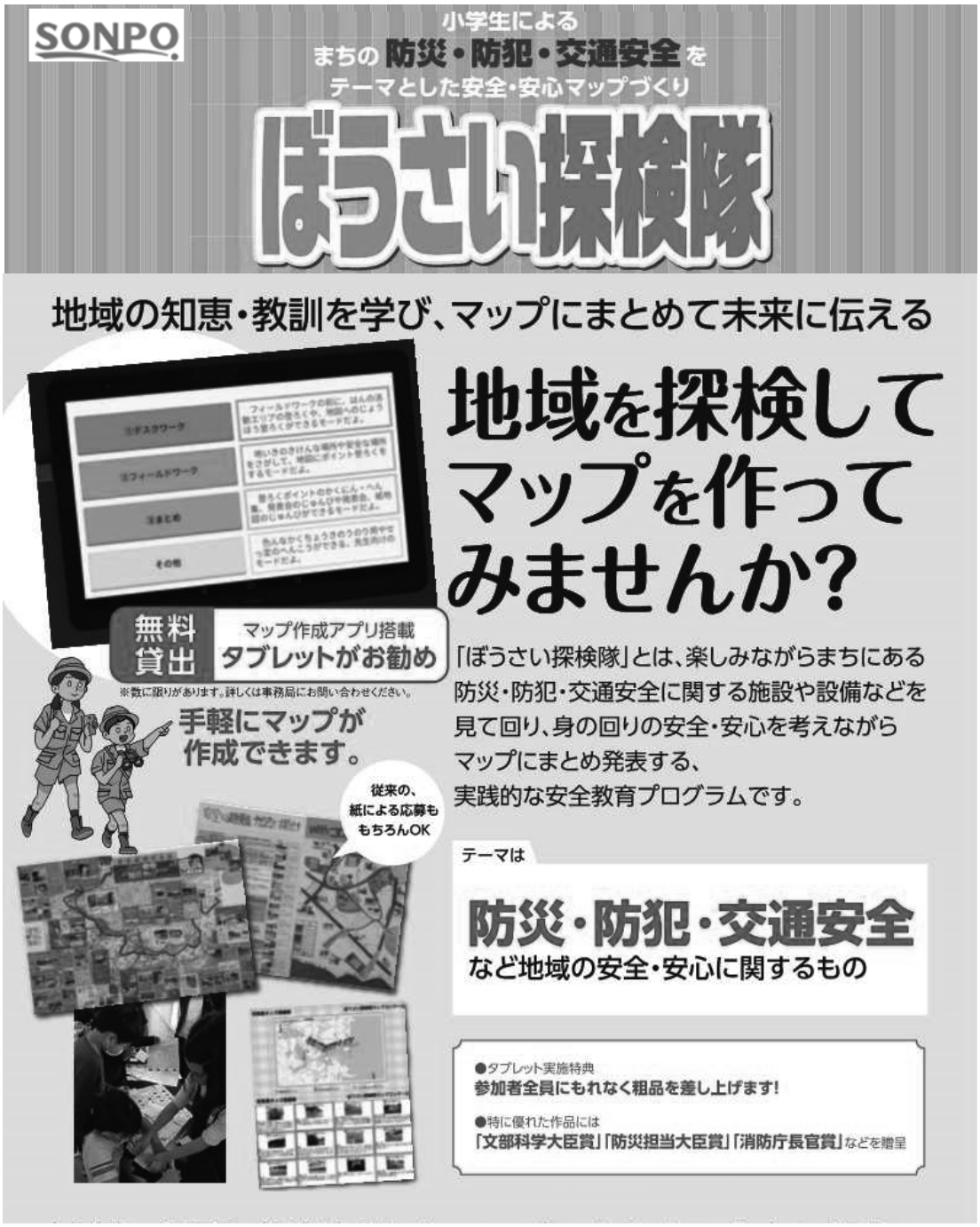
東京都東大和市立第一小学校長

濱脇　哲也

第４５回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会に向けて、本研究会では２年間研究を進めてまいりました。大会主題を「自他の生命を尊重し、安全のために行動ができる幼児・児童・生徒の育成」とし、副主題を「危険を予測し、自ら回避できる能力」として児童の育成をめざしてまいりました。その中で子供が授業中、休み時間、掃除の時間、給食の時間、登下校、家庭・地域でどんな危険があるかを確認し、事故等の発生の可能性を予測し、その危険を児童自身が主体的に回避できる力の育成をめざしてきたのです。その為に私たち教師は自分たちの経験を振り返るだけでなく、講師の先生やその分野の専門家を数多くお招きして研究を積み重ねてきました。また、新型コロナウイルス対策についての研究や、今年度より始まったGIGAスクール構想における一人一台パソコン利用におけるSNSの正しい使い方など、最新の情報からそのリスクについてもさらに理解を深めさせてきました。

今後、私達が学んできた研究内容をこの場だけに終わらせるのではなく、本大会を契機として全国の学校に広め、安全教育の優れた実践が広く共有され、子供たちの安全に対する関心や危機回避能力がさらに高まっていくことを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり、文部科学省、東京都教育委員会、葛飾区教育委員会をはじめ、関係諸機関の皆様に多大なるご支援、ご指導をいただきましたことに心より感謝申し上げます。また、本大会の会場校を引き受けていただきました葛飾区立柴又小学校の教職員並びにPTAをはじめとする地域の皆様の絶大なるご協力に御礼申し上げます。



防災・防犯・交通安全の視点から、まちなかの危険な場所、安全な場所を発見して、気づいたことをマップにまとめてみましょう。完成マップの発表を通して活動を振り返り、学んだことを共有します。子どもたちの「安心・安全への意識」が高まるだけでなく、まさに「地域ぐるみの安全 “共有”」が着実に深まり、コミュニティの強化にもつながります。

日本損害保険協会では、２００４年度から毎年、「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」を実施し、安全・安心マップ作品を募集しています。

一般社団法人 日本損害保険協会
業務企画部 啓発・教育グループ
TEL 03-3255-1215　FAX 03-3255-1236
E-mail:consumer@sonpo.or.jp

祝 第45回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会

東書マルチビデオソフト

地震防災

豊富なコンテンツの中から，オススメ（ねらい）再生で学習の流れをサポート！
シミュレーション映像やVR対応コンテンツで映像教材の新しい学びを！

小学校／中学校
高等学校

価格
学校内フリーライセンス
220,000円（本体200,000円）

- 大きな地震が起こった時や緊急地震速報が流れた時，さまざま危険に対し，どのように判断し行動すればよいのか，分岐型映像を用いたケーススタディを交えてわかりやすく解説します。
- 地震防災研究の最前線の研究や取り組み，またそれに関わる色々な人のインタビューなど，豊富な資料映像を設けることで，探求型の ICT 教材を実現しました。
- その他ハンドアウト資料はもちろん，シミュレーション学習映像・VR 体験映像資料を収録しています。
- 「けがの簡単な手当」である止血法「心肺蘇生法」の一つである AED の使い方なども収録

本編映像

- **オープニング**
- **地震のメカニズム（プレート型）**
  - ・東北地方太平洋沖地震
- **地震のメカニズム（活断層型）**
  - ・熊本地震
- **一次災害の対処**
  - ・学校
  - ・家庭
- **二次災害の対処**
- **住んでいる地域を調べよう**
- **備える**
- **地震予知**
- **緊急地震速報**
- **伝える**
- **共助**
- **エンディング**
- **地震防災入門**
- **本編の保護者向け**

資料映像

- **地震の研究**
  - ・地震予知
  - ・耐震
- **有識者が語る地震**
  - ・東北地方太平洋沖地震
  - ・熊本地震
  - ・地震が起きた時に大切なこと
  - ・緊急地震速報
- **被災者が語る地震**
  - ・東北地方太平洋沖地震
  - ・熊本地震
  - ・兵庫県南部地震
  - ・熊本地震被災者の地震への備え
- **地震の言い伝え**
  - ・大地震を伝える石碑
  - ・大地震を今に伝える（野島断層）
  - ・地震を語る昔の話
- **伝える**
  - ・つなみてんでんこ
- **応急処置**
  - ・包帯法
  - ・止血法
  - ・AEDの使い方
  - ・消化器の使い方
- **地震に備えて**
  - ・電車（新幹線）
  - ・電車（地下鉄）
  - ・バス
  - ・電気
  - ・ガス
  - ・消防署
  - ・水道
  - ・町
- **調べる**
  - ・地域を調べよう
- **共助**
  - ・ボランティア活動

シーン学習映像

- **家**
  - ・リビング
  - ・浴室
  - ・二次災害
  - ・外に出る時
- **学校**
  - ・教室
  - ・廊下
  - ・机のない教室
  - ・運動場
- **住宅地**
- **エレベーター**

監修者（順不同・敬称略）

戸田芳雄	日本安全教育学会理事長・明海大学客員教授・全国学校安全教育研究会 特別顧問
矢崎良明	元全安研会長・安全教育研究所代表・全国学校安全教育研究会 顧問
永山満義	前全安研会長・世田谷区教育委員会・全国学校安全教育研究会 顧問
佐藤　健	東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター センター長

東京書籍
教育事業本部 営業部（東京）〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1　Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582
（大阪）〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10　Tel:06-6397-1351 Fax:06-6397-1357
東京支社　〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1　Tel:03-5390-7467 Fax:03-5390-6017
ホームページ　https://www.tokyo-shoseki.co.jp　東書Eネット　https://ten.tokyo-shoseki.co.jp

放射線教育にかかわる すべての方に。

「放射線」授業の準備は"らでぃ"におまかせ！

https://www.radi-edu.jp/

"らでぃ"とは、多彩なコンテンツや出前授業で、「放射線」にかかわる教育を支援する事業です。

実践紹介

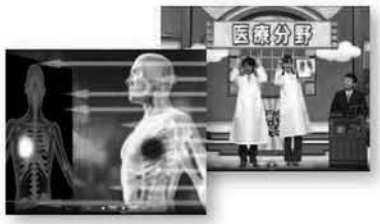
全国の先生は、どんな放射線授業をしているの？

実践事例や研究発表会の様子を見ることができます。

資料集

授業で「そのまま」使える資料が欲しい！理科・社会・総合学習 等

放射線の動画など授業で活用できる教材コンテンツが充実！



実験器材の貸出

授業で教育用放射線測定器を使用したい。無料で借りられるの？

測定器、測定試料セット、特性実験セット等を無料（送料含む）でレンタルできます。詳細はHPをご覧ください。

教員研修・出前授業受付中

えっ！専門家が来てくれるの？放射線測定体験や霧箱実験を実施

会員登録することによって、教員研修・出前授業が無料で申込できます。

その他

Q & A　用語集　取材記　コラム　リンク集

登録すると…教員研修・出前授業の申込や資料のダウンロードなど多数の支援が受けられます。

まずは検索！ らでぃ 検索 **会員登録をお願いします。https://www.radi-edu.jp/**

公益財団法人日本科学技術振興財団（放射線教育推進委員会監修）
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園２番１号
TEL：03-3212-8504 FAX：03-3212-8596 radi-info@jsf.or.jp

文部科学省委託事業

【令和3年度】

放射線に関する教職員研修及び出前授業
実施事業のご案内

東日本大震災により被災した児童生徒又は原子力発電所事故により避難している児童生徒へのいじめの防止、そして児童生徒が放射線に関する科学的な知識を身に付け、自ら考え、行動できるようになることを目的として、本事業では、放射線に関する教職員等を対象にした研修、児童生徒等への出前授業を実施します。

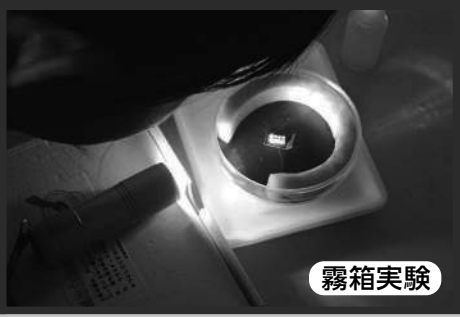
教職員研修

講義形式

グループワーク形式

出前授業

測定実験


霧箱実験

実施期間 令和3年4月30日（金）～令和4年2月10日（木） ※お申込み期日：令和4年1月31日（月）

会　　場 学校等にて会場の手配をお願いします。

講　　師 本事業認定講師（科学館職員、大学・研究機関等の専門家、教職員経験者等）

費　　用 無料

※お申込みが多数の場合には、ご希望に沿えないこともございますのでご了承ください。

後援

全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国小学校国語教育研究会、全日本中学校国語教育研究協議会、全国小学校社会科研究協議会、全国中学校社会科教育研究会、全国地理教育研究会、全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、日本理化学協会、全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会、全日本中学校技術・家庭科研究会、日本学校体育研究連合会、全国特別活動研究会、全国学校安全教育研究会

申込み・問合せ先

〒102-0091　東京都千代田区北の丸公園2-1　公益財団法人 日本科学技術振興財団　人財育成部
放射線に関する教職員研修及び出前授業事務局　電話：03-3212-8504（代）　FAX：03-3212-8596
e-mail：mext-seminar@jsf.or.jp　　URL：http://www2.jsf.or.jp/mext-seminar

～社会性の強いテーマを 教育映像で訴えています～

2021年 国内映像祭 受賞作品

どこに ひなんすればよいの？
南海トラフ地しん 大つ波がくる

教育映像祭
文部科学大臣賞・最優秀作品賞

小学校中・高学年向け／１９分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)
文部科学省特別選定

どう向きあえばよいの？南海トラフ巨大津波
大津波の経験を伝えたい

教育映像祭 優秀作品賞

中学生・高校生向け／２１分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)
文部科学省選定

フクロウ人形の秘密

教育映像祭 優秀作品賞

小学校高学年以上・一般向け／３０分
ＤＶＤ８２，５００円(税込)／学３８，５００円(税込)
文部科学省選定

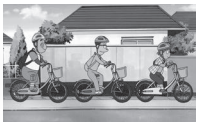
交通安全 災害安全 生活安全 作品

交通安全

ズッコケ三人組の自転車教室
安全な乗り方を身につけようの巻

幼児・小学生向け／１４分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

全日本交通安全協会推薦



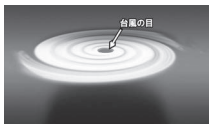
「ズッコケ三人組」シリーズ(ポプラ社刊)©那須正幹・前川かずお・高橋信也・ポプラ社

災害安全

巨大台風が上陸
早めに避難準備をしよう

小学生・中学生向け／１９分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

文部科学省選定



生活安全

ズッコケ三人組のぼうはん教室
ゆうかい・連れ去りから自分を守る

幼児・小学生向け／１７分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

文部科学省選定

「ズッコケ三人組」シリーズ(ポプラ社刊)
©那須正幹・前川かずお・高橋信也・ポプラ社

生活安全

ズッコケ三人組の いじめをなくす作戦

幼児・小学生向け／１５分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

・文部科学省選定

「ズッコケ三人組」シリーズ(ポプラ社刊)
©那須正幹・前川かずお・高橋信也・ポプラ社

生活安全

性ひがい、ひとりで苦しんで いませんか？
自分のからだを守るヒント

小学校中・高学年向け／１８分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

・文部科学省選定

生活安全

「買ってきて！」は詐欺です
若者を狙うプリペイドカード(電子マネー)詐欺

中学生以上・一般(１０代２０代)向け／１９分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

・厚生労働省社会保障審議会推薦
・文部科学省選定

生活安全

みんなの個人情報
なぜ知られる？どうしたら守れる？

小学生向け／２０分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

・文部科学省選定
・教育映像祭 優秀作品賞

生活安全

インターネットと個人情報
自分自身を守るポイント

中学生・高校生向け／２０分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

・文部科学省選定

生活安全

見えないところで起きるトラブル
ネットの危険性を考えよう

小学校中・高学年向け／１７分
ＤＶＤ７１，５００円(税込)／学３６，３００円(税込)

・文部科学省選定

お問い合わせ
チラシ請求は

株式会社映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD

〒160-0022
東京都新宿区新宿５丁目７番８号 らんざん５ビル
TEL:03-3359-9729 FAX:03-3359-4024
E-MAIL:info@eigakusya.co.jp

弊社ＨＰより、作品プレスの表裏がダウンロードできます！ https://www.eigakusya.co.jp/

祝 第45回 全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会

好評発売中！

観察・実験の授業前の確認や
予備実験の参考となるよう，
安全面に関するポイントをまとめました。

小学校理科 観察・実験
セーフティマニュアル

A5判／136ページ ■ 定価950円（本体864円）

理科室運営の基礎・基本をはじめ，
安全でたのしい観察・実験のポイントを
多数掲載。『理科の教師力』を高める
ための最適なテキストです。

中学校 **理科室ハンドブック**
理科好きを育てる魅力ある授業を目指して

A5判／160ページ ■ 定価1,100円（本体1,000円）

生活の基本図鑑シリーズ

B5判／63ページ ■ 定価：各3,080円（本体2,800円）

①家庭
ひとりでるす番
地震と火事から身を守る
家族で決めよう避難場所　など

②学校
朝礼中に気分が悪くなったら
きけんがいっぱい！登下校
O157をブロックせよ　など

③地域
災害から身を守る
家の外でけがをしたら
知らない人が近づいてきたら　など

小学生に必要な生活技能，危険予知法を絵入りでわかりやすく解説したシリーズです。

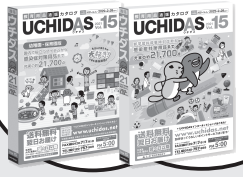
大日本図書
https://www.dainippon-tosho.co.jp

本　社　東京都文京区大塚3−11−6　【管理部供給課】☎03(5940)8676
中部支社　名古屋市千種区内山1−14−19　高島ビル　☎052(733)6662
関西支社　大阪市北区東天満2−9−4　千代田ビル東館6階　☎06(6354)7315
九州支社　福岡市中央区赤坂1−15−33 ダイアビル福岡赤坂7階　☎092(688)9595

教育用品通販

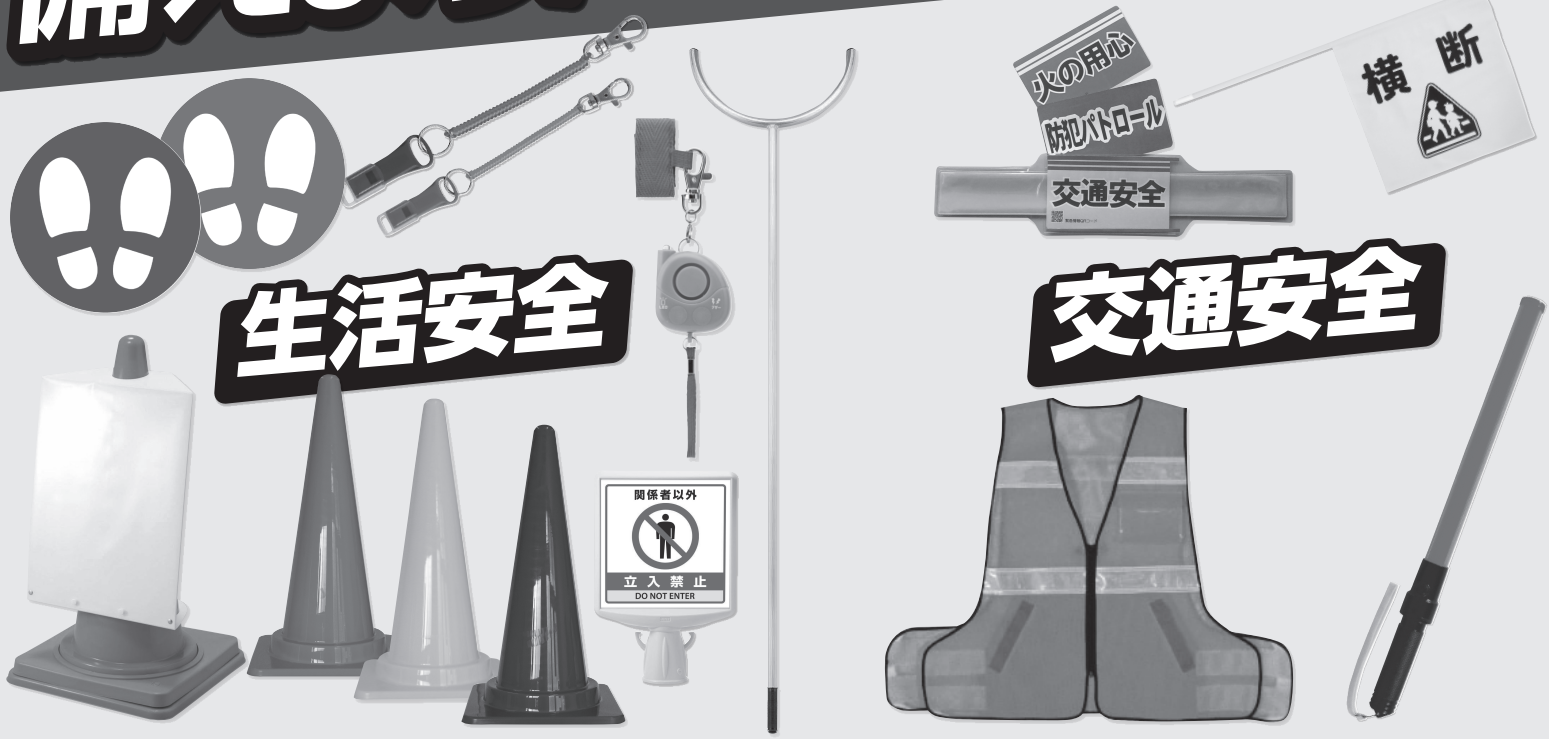
UCHIDAS
ウチダス

事務室・職員室にある
ウチダスカタログで
ご確認ください！



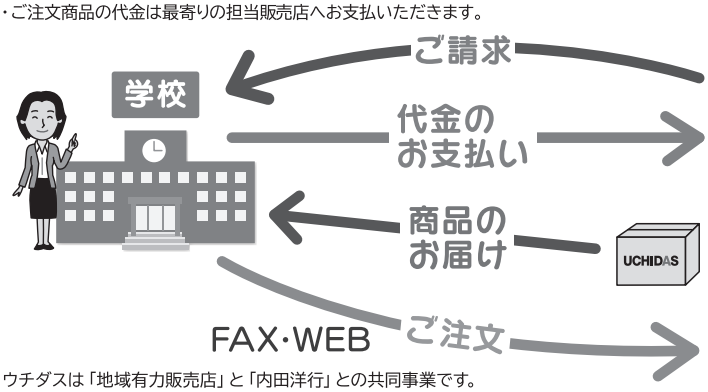
ウチダスで“もしも”に備えよう！

ウチダスには
学校安全（災害安全・生活安全・交通安全）**用品**を
多数取り揃えています。



■ウチダスのしくみについて

・学校様よりご注文（FAX・WEB）でいただいたご注文は、当社倉庫より配送されます。
・ご注文商品の代金は最寄りの担当販売店へお支払いただきます。



ウチダスは「地域有力販売店」と「内田洋行」との共同事業です。

お問い合せはこちら

株式会社内田洋行／教育機器事業部 ウチダス事業グループ

ウチダスお問い合せセンター TEL 0120-757-969

受付時間 午前9時～午後5時（土・日・祝日を除く）

www.uchidas.net

送料無料

インターネットショップ／FAX PM5:00までのご注文が**翌日お届け**※

※北海道、九州、離島、（本州・四国の一部）は翌々日以降にお届け　▲土日祝日を除きます

(株)ステップ総合研究所が子どもの安全教育に取り組む姿勢

1、私たちは、**科学的かつ子どもの発達に沿った**安全教育研究とそれに沿ったカリキュラムづくり・教材づくり・子ども指導などを心掛けています。

2、私たちは、現場中心に犯罪や大地震などの**「(危機に遭遇した)その時どうする」**ための具体的な指導をします。

3、私たちは、疑似的な危機を**体験する能動的な学習**を通し、幼稚園から高等学校までの子どもの安全指導を行います。

学校出前授業

学校や地域性に合わせたプログラムと施設をつくり、危機を克服する体験が出来る安全教育

理解度 (例)安全な歩き方
学習前20%➔学習後70%

教員への研修

この体験型安全教育は、**先生方の研修＋子どもへの指導＋効果測定**を行うことができます。

自治体等協力事業

移動式施設を用いた体験型安全教育で
経産省2021年
キッズデザイン賞受賞

保護者満足度**95%**

疑似的な危機に遭遇しことで体験的に学び、自分の力で乗り越える

実践
(特非)体験型安全教育支援機構

普及
(一社)安心安全教育協会

研究・開発
(株)ステップ総合研究所

指導者養成 自治体ガイドブック作成

①犯罪、地震の指導者養成講座

②文科省や地方自治体の事業を受託。子ども指導書作成や調査をしています

世田谷区

静岡県

教材開発・販売

指導書、ＤＶＤ、動画など

￥700＋税

￥900＋税

￥200＋税

￥200＋税

￥100＋税

（株）ステップ総合研究所

STEP
Institute of Safer Town Environmental Program

所長　清永 奈穂／ 所在地 文京区音羽1－10－7－101 TEL 03-3946-5203

お知らせ

2022年度事業として、これら教材を基にした**「教師向け、体験型安全教育の指導士(補)の養成を目的とした実践的研修」**を行ないます。
詳しくは当研究所HPに（22年２月登載）

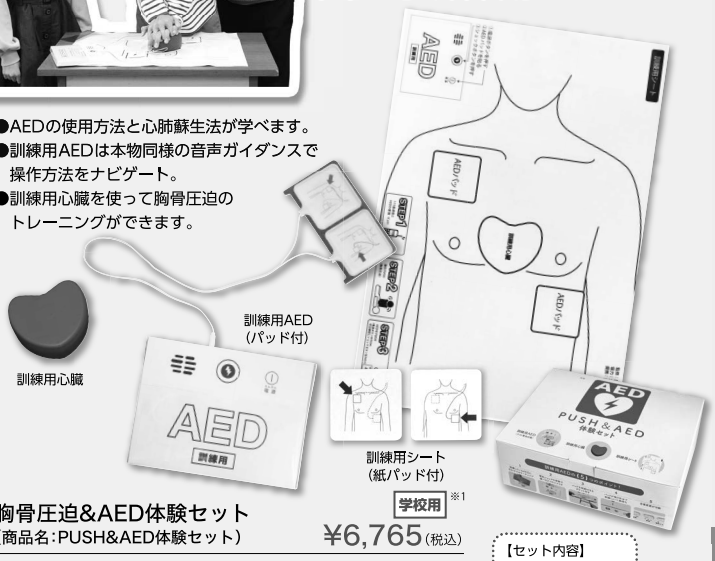
【教材販売・取材・講演等のお問合せ】 **info@ri-step.co.jp** TEL 03-3946-5203 FAX 03-6912-2678
【出張授業のお問い合わせ】 体験型安全教育支援機構のホームページ又は、**info@safety-education.org**

JKK sanwa

「スクラボ」はJKKとsanwaの共同事業です

胸骨圧迫とAEDを学べる本格的訓練用キット

- AEDの使用方法と心肺蘇生法が学べます。
- 訓練用AEDは本物同様の音声ガイダンスで操作方法をナビゲート。
- 訓練用心臓を使って胸骨圧迫のトレーニングができます。



胸骨圧迫&AED体験セット
(商品名:PUSH&AED体験セット)
学校用※1
¥6,765(税込)

【サイズ】訓練用AED:203×154×15.5mm、訓練用シート:400×600mm
【質量】訓練用AED:105g、訓練用シート:45g
【材質】訓練用AED:EVA・PVC・紙・ABS・銅・PCB・鉄、訓練用シート:PVC
【電源】単四形乾電池3本

【セット内容】
●訓練用AED×1
●訓練用心臓×1
●訓練用シート×1

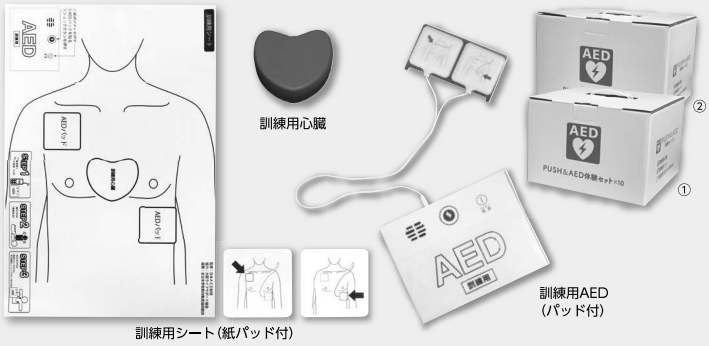
※1 学校用は、学校(小学校、中学校、高等学校等)でご購入いただき、その学校内で使用する際に適用される価格です。一般購入の場合は、別途お問い合わせください。

命を守る為の 3つのPUSH

❶胸をPUSH ❷AEDボタンをPUSH ❸あなた自身をPUSH

心肺蘇生を学んで救命率向上を目指し、命を大切にする心を育てる「PUSHプロジェクト」。このPUSHには3つの思いが込められています。最も難しいのは3つめかもしれません。倒れた方に声をかける勇気と大切さも教えてあげてください。

グループで胸骨圧迫を学ぼう！



胸骨圧迫体験セット
(商品名:PUSH体験セット)
学校用※1

①10セット ¥16,500(税込)
②20セット ¥32,780(税込)
③10セット+訓練用AED ¥21,000(税込)
④20セット+訓練用AED ¥37,000(税込)

【セット内容】
①●訓練用心臓×10 ●訓練用シート×10
②●訓練用心臓×20 ●訓練用シート×20
③●訓練用AED×1 ●訓練用心臓×10 ●訓練用シート×10
④●訓練用AED×1 ●訓練用心臓×20 ●訓練用シート×20

※ ①②は訓練用心臓、訓練用シートのセットです。訓練用AEDは付いてきません。

JKK 官公需適格組合 20191023関東第8号認可
全日本学校教材教具協同組合
経済産業大臣認可38 企庁第1292号
〒132-0021 東京都江戸川区中央4-11-8
Tel.03-6231-4177 Fax.03-6231-4220
jkkcoop.net

LIFEZACK

sanwaがお届けする
防災・防犯カタログです。

掴み返されても、独自のスプリング機能で相手を完全に無力化！

- より安全に！より使いやすく！
  パイプ部分をぐるっと囲い込んだコイルスプリングで無力化。
- 取り押さえられた相手が反撃に出てパイプを掴んでも、スプリングにより力がパイプまで届きません。
- 捕らえられればもはや、握ることも、押し戻すことも、ねじり取ることも不可能。
  危険性を考えて開発された画期的製品です。

詳しい使い方はこちらから！

個包装パッケージ
100個組は除きます

耳に一番届きやすい3150Hzの音が出る!

アルミ安全さすまたスプリンガー1900L

①レギュラー ¥26,180(税込)
②パワーグリップ ¥27,500(税込)

【サイズ】幅500×全長1890mm
【質量】1.47kg【材質】アルミ
【付属品】壁取付金具1組

別途送料

握りやすく、操作性がアップした防御盾

- 5mm厚のポリカーボネート板。取っ手に持ちやすいように黄色のグリップを巻きました。
- 取っ手とポリカ板の間にフェルトを入れて、回転をよりスムーズに行えるようになりました。

ポリカ防御盾

①60cm ¥27,500(税込)
②90cm ¥31,680(税込)

【サイズ】①600×450mm②900×450mm
【質量】①2.6kg②3.4kg
【材質】ポリカーボネート、スチール

防災防犯ホイッスル 科学の笛 サイコール

防災防犯ホイッスル サイコール

①1個 各¥198(税込)
②20個組 各¥3,960(税込)
③100個組(各色10個) ¥19,800(税込)

蓄光
①1個 ¥286(税込)
②20個組 ¥5,720(税込)

【サイズ】1個:47×20×8mm【質量】1個:2g【材質】ABS樹脂
※100個組は化粧箱に入ったパッケージになります。

sanwa 株式会社 三和製作所
〒132-0021 東京都江戸川区中央 4-11-8
tel.03-5607-7811(代) fax.03-5607-7812
sanwa303.co.jp

祝 第45回全国学校安全教育研究大会
東京都学校安全教育研究大会

考え議論する
新しい道徳科 実践事例集

小・中学校校種を超え、教科等横断的な道徳科の理論と実践からの提言。
児童生徒が自ら道徳性を育むために、答えが一つではない課題に真剣に向き合い、考え、議論する道徳科への転換を図る。

編著 鈴木明雄・江川登
定価 1,980円
（本体1,800円＋税10%）
B5判 240頁
ISBN978-4-5366-0109-2

知りたいことがきっとわかる！
道徳教育 Q&A

長年現場を指導してきた著者が170のギモンに答えます！
例えば……
・低学年らしい具体的な導入は？
・主人公の気持ちばかり聞くのは？
・板書のポイントは？
・年間指導計画の作り方は？
などなど

著者 河合宣昌
定価 1,650円
（本体1,500円＋税10%）
B5判 184頁
ISBN978-4-536-60105-4

書籍は、最寄りの書店でお求めください。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版
https://www.nichibun-g.co.jp/

日本文教出版株式会社　お問い合わせは大阪本社業務部までお願い致します。
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL:06-6692-1261
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16 TEL:03-3389-4611

祝 第45回 全国学校安全教育研究大会

通学路の点検や防災マップの作成に！
オリジナル学区地図

●安全マップの作成もできる、オーダーメイドの学区地図データです。“まちたんけん”“保護者会説明資料”など、学校全体で活用できます。
●地図画像データは自由に印刷ができ、ワークシートや発表用ポスターシートも作成できます。
●別売で簡単に地図加工ができるソフト「ちずの助」を発売中。学区地図とのセット購入でお安くなります。

地図画像データ CD-ROM
㊐定価 73,700円（本体価格67,000円）～

※大型地図シート付きセットもご用意しています。

地図に基本的に掲載される情報
●町名 ●主な道路
●鉄道 ●公共の建物
●河川・湖沼

先生の原稿作成は不要です
超画期的ならくらく発注システム
詳細は弊社までお問い合せください

株式会社 全教図
〒170-0012 東京都豊島区上池袋1-38-2 TEL 03-3917-0331(代) FAX 03-3915-6564
E-mail : info@zenkyozu.co.jp URL : https://www.zenkyozu.co.jp
全教図 検索

全教図ホームページをご覧ください●学区地図の詳しいご案内や、ほかの地図教材・掲示教材を多数紹介しています。

子どもたちの安全教育のために！ 少年写真新聞社の写真ニュース＆書籍

ネットの安全特集も充実！

みんなの安全ニュース

（月３回発行　年間購読定価19,140円）

よいこのあんぜんニュース

（月１回発行　年間購読定価9,108円）

すぐに使えるパワポ教材！

パワポで簡単！ＧＩＧＡスクール時代の
スマホ・ゲーム・ネットリテラシー授業

監著：清川輝基

お申し込み・お問い合わせは

株式会社　少年写真新聞社

読者サポート本部

https://www.schoolpress.co.jp/

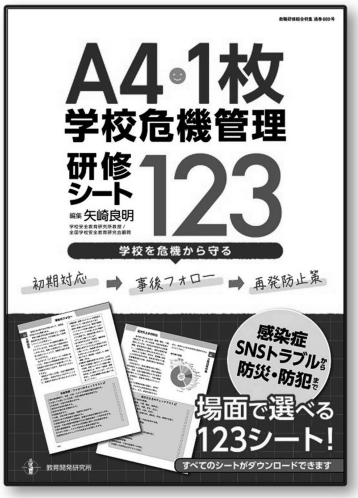
東京　〒102-8232　東京都千代田区九段南 4-7-16 市ヶ谷ＫＴビルⅠ
TEL. 03(3263)7401　FAX. 03(3263)9400

大阪　〒541-0041　大阪市中央区北浜 2-3-6
TEL. 06(6228)1910　FAX. 06(6228)1911

九州　〒812-0013　福岡市博多区博多駅東 1-1-28
TEL. 092(451)6535　FAX. 092(412)1493

A4・1枚 学校危機管理 研修シート123

不祥事やクレーム対応から
自然災害まで場面で選べる123シート！



Point　学校を危機から守る校内研修はこれ!

3段階の効率的アクティブ研修!

① 初期対応とチェック ➡ ② 事後のフォローとチェック ➡ ③ 再発防止とチェック

感染症、アレルギー
SNSトラブル
事故、情報流出
体罰、パワハラ
クレーム対応
いじめ、不登校、学級崩壊
地震災害、火災、気象災害
Jアラートへの対応　他

【編集】矢崎良明（学校安全教育研究所教授／全国学校安全教育研究会顧問）
B5判／188頁／定価2,640円（本体2,400円＋税）

教育開発研究所　〒113-0033　東京都文京区本郷2-15-13　TEL：03-3815-7041　FAX：0120-462-488

こども登下校メール

学校から届く安心メール

一般社団法人 こども登下校メール普及協会　　http://kodomo-togeko.or.jp/

祝 第45回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会

教育出版の安全副読本

小学校安全副読本 わたしたちの安全

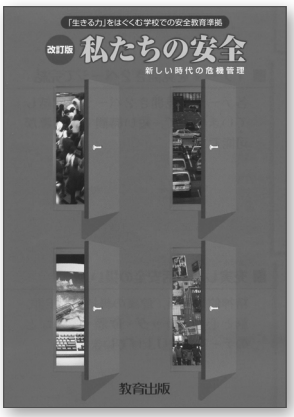
〈代表著作者〉渡邉正樹

- 各学年に**新型コロナウイルス**感染症対策の口絵を新設。
- **ウェブサイト**を活用して学べる「まなびリンク」が登場。
- **地震や台風などの災害**に関するページを充実させました。
- **危険の予測と避難**について考える場面を大切にしました。
- **情報に関する指導**を発達段階に応じて丁寧に扱いました。

定価 各学年400円（本体364円+税）　B5判／44～64p
■教師用指導書：定価 各学年1,300円（本体1,182円+税）

改訂版 私たちの安全 新しい時代の危機管理

〈代表著作者〉吉田瑩一郎



- 中学校、高等学校向けの、安全副読本。
- 見開き2ページで構成される29の項目を掲載。
- 自然災害や地域安全などを、個人と社会の両側面から捉えます。
- 人権、著作権・肖像権、個人情報なども取り上げました。
- 性犯罪、ドラッグ・飲酒・喫煙についても立項しました。

定価419円（本体381円+税）　B5判／64p

教育出版　〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館　TEL 03-5579-6989
ホームページ https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/　FAX 03-5579-6693

地球となかよし 教育出版

こちらから弊社Webサイトにアクセスできます。

CHUO
chuo1950.com

ひとつでいろいろ優れモノ。

くるっとネーム®ポケット

PAT.〔特許登録済〕

【メーカー希望小売価格】840円(税込)

いつも前向きで機能的!

くるっと回して、ひと安心。

くるっと回転させて名前を隠すことで
防犯・不審者対策に対応。
反射テープにより安全に登下校できます。

毎日、名札の取り外しが面倒だったが、くるっと回すだけでラクだ。〔生徒〕

名札の付け忘れや無くす心配がなくなった。〔生徒〕

登下校時の防犯・不審者対策ができて安心です。〔保護者〕

くるっとネーム®は教育現場の声から生まれました。

修学旅行等で名札をはずしたりまた縫い付けたりがなくなって助かる。〔保護者〕

名札の件での指導が減った。必要な時に名前が分かり便利だ。〔教員〕

生徒が自分で判断して操作するので、防犯への意識向上へつながる。〔教員〕

いつも前向き!

プレート式なのでネームプレートが下を向きません!

オールシーズンOK!

差し込み式なので縫い付け不要!
冬服〔学生服・ブレザー〕OK!
夏服〔ワイシャツ・セーラー〕OK!
年中使えて経済的。

安全で丈夫!

安全ピンや取り付けフックなどの留め金具なしで安全です。PC(ポリカーボネイト)素材により、薄型軽量で耐久性があります。
角丸加工で生地にも優しいです。

カード収納ができて便利!!

薄型の本体にカード収納機能があり、常に持ち歩くカード類を携帯できます。

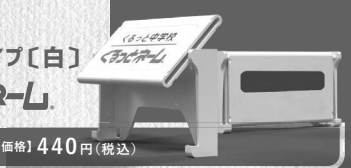
最大95㎜×60㎜までのカード類を複数枚収納可能

例 ◦身分証明書(学生証)
◦図書貸し出しカード
◦eライブラリーIDカード
◦診察券
◦カードキー など

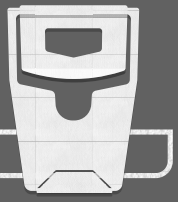
くるっとネーム®商品ラインナップ

縫い付けタイプ〔黒〕
くるっとネーム®
【メーカー希望小売価格】440円(税込)

縫い付けタイプ〔白〕
くるっとネーム®
【メーカー希望小売価格】440円(税込)



ポケットプレートのみ〔クリア〕
ぽけっとプレート
【メーカー希望小売価格】440円(税込)



〔お問合せ〕㈲志太地区教育用品 TEL054-634-1166 〒426-0061藤枝市田沼3丁目13番9号

memo

第45回

全国学校安全教育研究大会
東京都学校安全教育研究大会

発　行　　全国学校安全教育研究会
　　東京都学校安全教育研究会

発行日　　令和４年２月４日

印刷所　　(有)村山プロセス